

令和 8 年度
全国博物館長会議（第33回）

期日：令和 8 年 7 月 10 日（金）

会場：文部科学省 東館 3 階講堂

主催：文化庁・公益財団法人日本博物館協会

目 次

【開催要項】

- 令和8年度全国博物館長会議（第33回）開催要項 1

【博物館の現状】

- 博物館数の推移 3
- 種類別博物館数／博物館の年間開館の状況 4
- 博物館における諸集会の実施状況／博物館におけるボランティア活動状況 . . . 5
- 博物館（登録、相当施設）の入館者の推移 6
- 1館当たりの職員数の状況／種類別博物館数及び学芸員数 7
- 博物館のバリアフリー対応状況 8
- 博物館の構成 9

【文部科学省・文化庁における博物館関連施策】

- 令和8年度博物館関係予算額一覧 10
- 令和8年度学芸員・文化財保護専門技術者等の研修会等一覧 12
- 博物館における学芸員等を対象とした研修・派遣事業 15
- 博物館機能強化推進事業 19
- 新制度施行を踏まえた体制強化等を目指す館への専門的人材派遣 20
- 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業 21
- 文化遺産オンラインについて 22
- 被災ミュージアム再興事業 26
- 博物館に対する税制上の優遇措置について 27
- 美術品補償制度について 29
- 海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律について 32

【国立博物館等の概要・企画展一覧】

- 独立行政法人国立科学博物館の概要・令和8年度展覧会予定一覧 33
- 独立行政法人国立美術館の概要・令和8年度展覧会予定一覧 35
- 独立行政法人国立文化財機構の概要・令和8年度展覧会予定一覧 37

【日本博物館協会の取組】

- 公益財団法人日本博物館協会の主要活動について 39
- 第73回全国博物館大会決議 45
- 2026年「国際博物館の日」記念事業の概要／一覧 47
- 第73回全国博物館大会（岩手大会）概要 55

【博物館関係団体の概要】

- ・ ICOM日本委員会 56
- ・ 公益財団法人日本博物館協会 57
- ・ 公益社団法人日本動物園水族館協会 58
- ・ 公益社団法人日本植物園協会 59
- ・ 一般社団法人全国美術館会議 60
- ・ 美術館連絡協議会 61
- ・ 全国科学博物館協議会 62
- ・ 全国科学館連携協議会 63
- ・ 日本プラネタリウム協議会 64
- ・ 全国文学館協議会 65
- ・ 全国大学博物館学講座協議会 66
- ・ 大学博物館等協議会 67
- ・ 全国歴史民俗系博物館協議会 68
- ・ 日本公開天文台協会 69

令和8年度全国博物館長会議（第33回）開催要項

【テーマ】新しい発想で博物館の機能を強化する

1. 趣 旨

全国の国公立の博物館長に参加を求め、博物館を取り巻く文化政策や現在求められている役割・機能、博物館現場における諸課題について情報共有を行う。また館長のマネジメントの強化を基盤として博物館運営の充実を図り、教育・学術・文化の発展はもとより、中長期的かつ持続的に地域の活力向上に寄与していくための方策を協議する会議とする。

2. 主 催 文化庁、公益財団法人日本博物館協会

3. 対 象 全国の国公立博物館長

4. 期 日 令和8年7月10日（金）

5. 場 所 文部科学省 東館3F講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

6. 日 程 ※時間及び内容は変更となる可能性があります。

※各発表・講演についてはアーカイブ動画を後日配信する予定です。

【午前の部】Innovate MUSEUM 事業成果報告会

9:30～10:00 受付

10:00～ 「令和7年度 Innovate MUSEUM 事業」報告会開会挨拶（文化庁）

「令和7年度 Innovate MUSEUM 事業」事業説明（文化庁）

10:05～10:25 「博物館収蔵資料のデジタル化共同実施支援」
KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
中西 俊介 氏（京都府文化生活部文化政策室政策推進係 副主査）

10:25～10:45 「博物館連携によるデジタルアーカイブ「宮城の民具」のこれまでとこれから」
宮城民俗コモンズ事務局（東北歴史博物館）
今井 雅之 氏（東北歴史博物館 研究員）

10:45～11:05 「Innovate MUSEUM 事業完了後の展開 どのように維持・成長してきたか」
ミュージアム活性化実行委員会

釋 知恵子 氏（地方独立行政法人大阪市博物館機構 事務局経営企画課 課長代理）

11:05～11:15 休憩

11:15～11:55 質疑応答&ディスカッション

【午後の部】令和8年度全国博物館長会議（第33回）

12:30～13:30 受付（※午後から参加の方のみ）

13:30～13:40 開会挨拶（文化庁・公益財団法人日本博物館協会）

13:40～14:00 「文化庁の博物館政策について」（文化庁）

14:00～14:20 「博物館総合調査速報版にみる博物館の現在地」（公益財団法人日本博物館協会）

14:20～14:40 第6回日本博物館協会賞受賞館プレゼンテーション

「小さな虫と地域を楽しむ伊丹市昆虫館の活動」

坂本 昇 氏（伊丹市昆虫館館長）

14:40～15:00 休憩

15:00～15:20 「愛知県美術品等の共同収蔵庫整備基本計画について」

山田 章貴 氏（愛知県庁県民文化局文化芸術課収蔵庫整備グループ課長補佐）

「美術館収蔵庫の公開事例について」

平瀬 礼太 氏（地方独立行政法人愛知県美術館機構副理事長・愛知県美術館館長）

- 15:20～15:40 「美術工芸品修理に不可欠な原材料確保の取組み
ー文化財の匠プロジェクトと企業立登録博物館の可能性ー」
野崎 香樹 氏（武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園園長）
- 15:40～16:00 「地域博物館にとっての博物館登録制度」
實松 幸男 氏（春日部市文化財課長 兼 春日部市郷土資料館館長）
- 16:00～16:20 「館種別組織による博物館相互支援の取組み」
佐久間 大輔 氏（大阪市立自然史博物館学芸課長）
- 16:20～16:40 「地域コミュニティのハブとしての博物館」
福原 諭祐 氏（十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ館長）
小林 誠 氏（十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ学芸員）
- 16:40～17:20 トークセッション
- 17:20～17:50 質疑応答
- 17:55 閉会

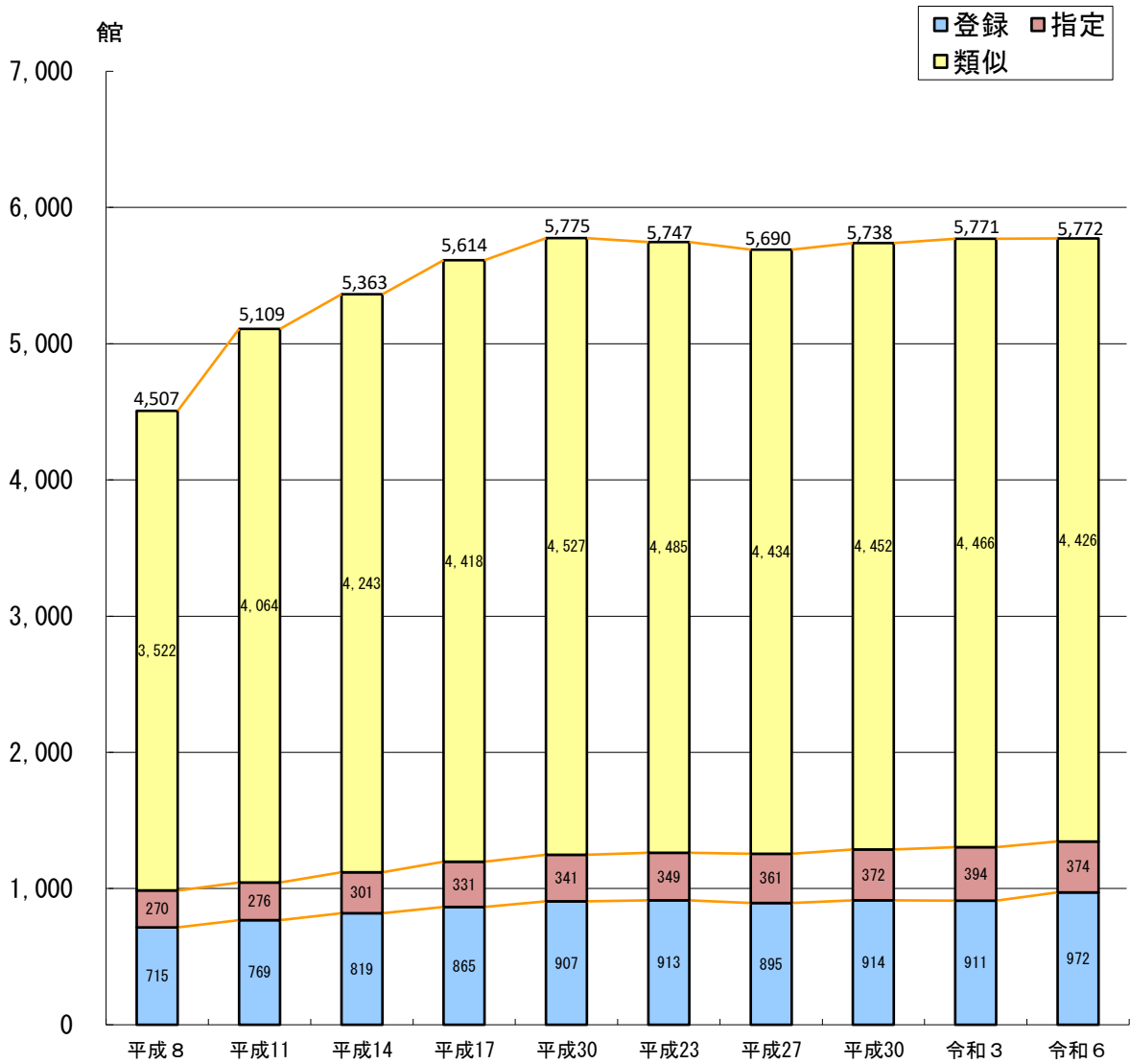
【夜の部】

- 18:15～19:45 情報交換会（※参加希望者のみ） 文部科学省 1 階食堂

博物館の現状について

参考：令和6年度社会教育調査

1. 博物館数の推移



(館)

区分	計	登録	指定	類似	内 訳			
					国・独法	都道府県	市町村	私立
平成 8 年度	4,507	715	270	3,522	72	313	2,795	1,327
平成 1 1 年度	5,109	769	276	4,064	154	349	3,173	1,433
平成 1 4 年度	5,363	819	301	4,243	161	402	3,390	1,410
平成 1 7 年度	5,614	865	331	4,418	197	418	3,605	1,394
平成 2 0 年度	5,775	907	341	4,527	206	425	3,739	1,405
平成 2 3 年度	5,747	913	349	4,485	202	411	3,832	1,302
平成 2 7 年度	5,690	895	361	4,434	196	401	3,890	1,203
平成 3 0 年度	5,738	914	372	4,452	228	407	3,918	1,185
令和 3 年度	5,771	911	394	4,466	229	409	3,968	1,165
令和 6 年度	5,772	972	374	4,426	241	417	4,000	1,114

(※「博物館相当施設」については現行法における呼称である「指定施設」に統一している)

2. 種類別博物館数

(館)											
区分		計	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
登録・指定	平成8年度	985	118	100	332	325	11	33	18	9	39
	平成11年度	1,045	126	105	355	353	13	28	16	10	39
	平成14年度	1,120	141	102	383	383	11	31	17	10	42
	平成17年度	1,196	156	108	405	423	13	32	12	9	38
	平成20年度	1,248	149	105	436	449	18	29	11	10	41
	平成23年度	1,262	143	109	448	452	18	32	10	8	42
	平成27年度	1,256	152	106	451	441	16	35	10	7	38
	平成30年度	1,286	154	104	470	453	16	34	11	6	38
	令和 3年度	1,305	157	100	476	457	18	36	11	7	43
	令和 6年度	1,346	161	109	495	470	17	35	13	7	39
類似施設	平成8年度	3,522	177	283	2,272	520	48	51	111	19	41
	平成11年度	4,064	219	330	2,561	634	71	65	128	17	39
	平成14年度	4,243	225	342	2,708	651	85	62	124	13	33
	平成17年度	4,418	262	366	2,795	664	93	63	121	16	38
	平成20年度	4,527	280	380	2,891	652	88	58	122	19	37
	平成23年度	4,485	288	363	2,869	635	100	60	113	16	41
	平成27年度	4,434	298	343	2,851	623	93	59	107	14	46
	平成30年度	4,452	318	350	2,858	616	91	59	101	16	43
	令和3年度	4,466	339	347	2,863	604	103	61	92	16	41
	令和 6年度	4,426	335	345	2835	595	104	58	91	17	46

3. 博物館の年間開館の状況

(館)													
区分	登録・指定施設						博物館類似施設						
	平成19年度	平成22年度	平成26年度	平成29年度	令和2年度	令和5年度	平成19年度	平成22年度	平成26年度	平成29年度	令和2年度	令和5年度	
計	1,240	1,243	1,240	1,266	1,262	1,318	4,436	4,310	4,291	4,303	4,241	4,252	
割合	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
199日以下	104	108	115	131	272	146	523	508	529	534	863	620	
割合	8.4%	8.7%	9.3%	10.3%	21.6%	11.1%	11.8%	11.8%	12.3%	12.4%	20.3%	14.6%	
200日～299日	448	514	445	445	810	515	1,314	1,420	1,278	1,258	2,382	1,410	
割合	36.1%	41.4%	35.9%	35.2%	64.2%	39.1%	29.6%	32.9%	29.8%	29.2%	56.2%	33.2%	
300日以上	688	621	680	690	180	657	2,599	2,382	2,484	2,511	996	2,222	
割合	55.5%	49.9%	54.8%	54.5%	14.3%	49.8%	58.6%	55.3%	57.9%	58.4%	23.5%	52.3%	
日曜日及び祝日開館	1,155	1,152	1,152	1,167	1,160	1,171	3,907	3,834	3,851	3,845	3,786	3,506	
割合	93.1%	92.7%	92.9%	92.2%	91.9%	88.8%	88.1%	89.0%	89.7%	89.4%	89.3%	82.5%	

※ 当該年度間の未開館及び翌年度新設の登録博物館、指定施設、博物館類似施設を除く。

4. 博物館における諸集会の実施状況

		登録・指定施設						博物館類似施設					
		平成19年度間	平成22年度間	平成26年度間	平成29年度間	令和2年度間	令和5年度間	平成19年度間	平成22年度間	平成26年度間	平成29年度間	令和2年度間	令和5年度間
館数		1,240	1,243	1,240	1,266	1,262	1,318	4,436	4,310	4,291	4,303	4,241	4,252
実施館数		979	992	1,001	1043	878	1061	1,760	1,823	1,916	1,970	1,566	1,892
割合		78.9%	79.8%	80.7%	82.4%	69.6%	80.5%	39.7%	42.3%	44.7%	45.8%	36.9%	44.5%
事業実施	実施件数	34,179	44,460	55,698	64,637	33,357	56,952	44,894	52,083	61,535	69,370	30,688	61,547
	参加者数 (千人)	3,305	3,596	3,643	4,567	1,348	2,435	4,934	4,619	4,277	4,658	1,335	2,769

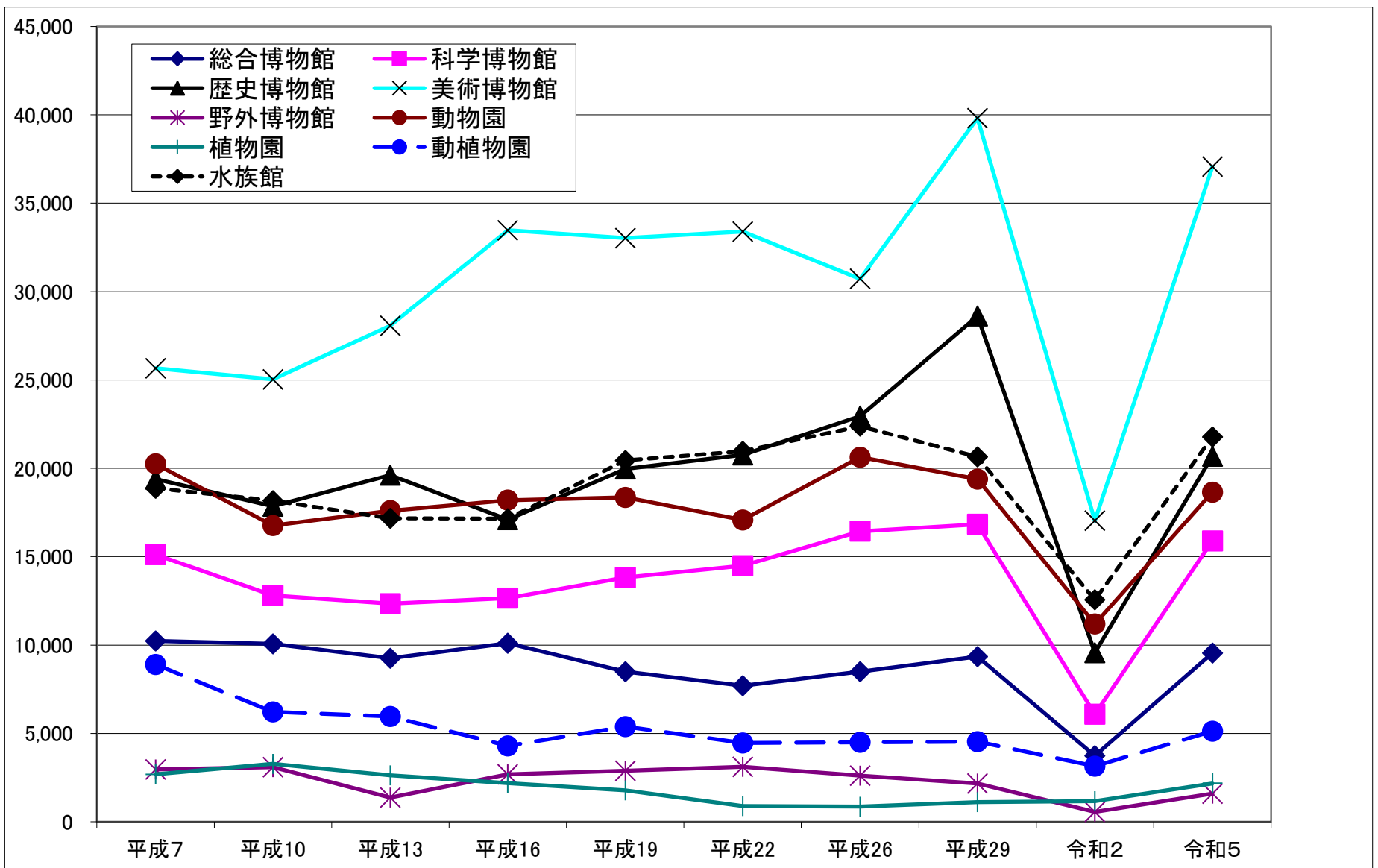
※1. 当該年度間の未開館及び翌年度新設の登録博物館、指定施設、博物館類似施設を除く。

※2. 平成16年度以降の事業実施には、新たに調査を開始した登録博物館・指定施設の学級・講座の実施件数及び参加者数、博物館類似施設の学級・講座の実施件数及び参加者数が含まれる。

5. 博物館におけるボランティア活動状況

区分	平成20年度		平成22年度		平成26年度		平成29年度		令和2年度		令和5年度	
	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設	登録・指定施設	博物館類似施設
館数	1,248	4,527	1,262	4,485	1,256	4,434	1,286	4,452	1,305	4,466	1,346	4,426
登録制度のある館	462	769	509	866	539	908	534	935	537	903	549	905
割 合	37.0%	17.0%	40.3%	19.3%	42.9%	20.5%	41.5%	21.0%	41.1%	20.2%	40.8%	20.4%
登録団体数	382	762	405	684	526	1182	792	987	653	909	847	754
登録者数	29,602	45,986	33,957	38,015	37,942	39,497	35,011	48,938	33,049	33,212	32,856	36,398

6. 博物館(登録, 指定施設)の入館者の推移



登録・指定

(千人)

	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館	計	1館当り入館者数
平成7年度	10,233	15,116	19,396	25,668	2,961	20,252	2,679	8,898	18,871	124,074	128
平成10年度	10,073	12,806	17,849	25,034	3,087	16,756	3,279	6,218	18,171	113,273	110
平成13年度	9,249	12,334	19,617	28,071	1,362	17,603	2,625	5,953	17,163	113,977	103
平成16年度	10,106	12,658	17,101	33,472	2,687	18,197	2,182	4,300	17,151	117,854	99
平成19年度	8,500	13,816	19,965	33,029	2,894	18,359	1,778	5,383	20,441	124,165	100
平成22年度	7,692	14,491	20,754	33,395	3,111	17,083	885	4,456	20,964	122,831	99
平成26年度	8,499	16,439	22,950	30,724	2,601	20,631	860	4,498	22,377	129,579	104
平成29年度	9,349	16,830	28,611	39,811	2,157	19,396	1,117	4,538	20,646	142,455	113
令和2年度	3,736	6,087	9,572	17,038	560	11,191	1,162	3,147	12,553	65,047	52
令和5年度	9,555	15,887	20,680	37,069	1,590	18,653	2,175	5,126	21,773	132,508	101

類似施設

(千人)

	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館	計	1館当り入館者数
平成10年度	9,741	21,863	60,680	28,380	4,749	15,285	16,121	2,285	8,272	167,376	42
平成13年度	6,567	20,881	58,438	22,451	4,895	17,284	14,740	1,281	8,989	155,526	37
平成16年度	8,314	18,002	61,322	23,484	3,934	14,716	12,632	2,347	10,077	154,828	36
平成19年度	8,568	21,269	57,424	24,227	3,979	15,105	13,622	2,271	9,241	155,706	35
平成22年度	10,629	19,251	58,211	28,316	3,592	14,648	11,469	1,559	6,146	153,821	36
平成26年度	11,193	19,172	55,372	23,948	3,503	14,048	11,616	1,327	10,238	150,417	35
平成29年度	12,466	19,771	59,554	20,499	3,612	14,555	16,983	1,845	11,328	160,613	37
令和2年度	4,926	6,774	29,571	8,190	2,484	9,477	6,248	802	6,185	74,657	18
令和5年度	10,479	16,482	46,989	16,297	3,132	10,850	8,789	1,241	10,847	125,107	29

7. 1館当たりの職員数の状況

(人)

区分		計	専 任					兼任	非常勤
			計	館長	学芸員	学芸員補	その他		
登録・指定	平成11年度	14.6	10.5	0.5	2.5	0.3	7.2	1.2	2.9
	平成14年度	14.8	10.2	0.5	2.6	0.3	6.9	1.3	3.3
	平成17年度	14.5	9.6	0.5	2.7	0.3	6.2	0.9	4
	平成20年度	14.4	8.7	0.5	2.6	0.3	5.3	1	4.7
	平成23年度	13.1	7.7	0.4	2.5	0.3	4.5	1	4.4
	平成27年度	13.1	7.6	0.4	2.6	0.3	4.4	1	4.5
	平成30年度	12.9	7.3	0.4	2.5	0.3	4.1	1.1	4.5
	令和 3年度	14.0	7.9	0.4	2.6	0.3	4.5	1.1	5.0
	令和 6年度	13.9	7.9	0.4	2.7	0.2	4.6	1.1	4.9
類似施設	平成11年度	6.2	3.2	0.3	0.3	0.02	2.5	1.3	1.8
	平成14年度	6.3	3	0.3	0.3	0.03	2.3	1.3	2
	平成17年度	6.2	2.7	0.3	0.3	0.02	2.1	1.2	2.3
	平成20年度	6.1	2.3	0.2	0.3	0.03	1.8	1.2	2.6
	平成23年度	4.6	1.7	0.2	0.2	0.01	1.3	1.1	1.8
	平成27年度	4.6	1.7	0.2	0.2	0.03	1.2	1.1	1.8
	平成30年度	4.8	1.7	0.2	0.3	0.0	1.2	1.1	2.0
	令和 3年度	5.0	1.7	0.2	0.3	0.0	1.2	1.2	2.1
	令和 6年度	5.2	1.8	0.2	0.3	0.0	1.2	1.2	2.2

8. 種類別博物館数及び学芸員数

区分		計	総合博物館	科学博物館	歴史博物館	美術博物館	野外博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
指 登 定 録	博物館数	1,346	161	109	495	470	17	35	13	7	39
	割 合	100.0%	12.0%	8.1%	36.8%	34.9%	1.3%	2.6%	1.0%	0.5%	2.9%
	学芸員数	5,618	870	465	1,814	1,979	43	179	27	13	228
	割 合	100.0%	15.5%	8.3%	32.3%	35.2%	0.8%	3.2%	0.5%	0.2%	4.1%
類 似 施 設	博物館数	4,426	335	345	2,835	595	104	58	91	17	46
	割 合	100.0%	7.6%	7.8%	64.1%	13.4%	2.3%	1.3%	2.1%	0.4%	1.0%
	学芸員数	3,824	375	236	2,328	653	34	64	19	7	108
	割 合	100.0%	9.8%	6.2%	60.9%	17.1%	0.9%	1.7%	0.5%	0.2%	2.8%

9. 博物館のバリアフリー対応状況

博物館のスロープ等設備の保有館数

区 分		設置率	全館数	計	国	独立行政法人	都道府県	市（区）	町	村	組合	地方独立 行政法 人・ 公立大学 法人	一般社団法 人 一般財団法 人 公益社団法 人 公益財団法 人	その他 法人等
スロープ	登録博物館	69%	972	666	—	—	109	324	54	3	2	3	146	25
	指定施設	69%	374	259	—	26	39	86	9	2	2	1	23	71
	計	69%	1,346	925	—	26	148	410	63	5	4	4	169	96
障害者用 トイレ	登録博物館	84%	972	820	—	—	130	411	65	3	2	5	177	27
	指定施設	85%	374	318	1	33	40	106	10	2	2	2	25	97
	計	84%	1,346	1,137	—	33	170	517	75	5	4	7	202	124
エレベーター	登録博物館	62%	972	604	—	—	113	295	36	1	2	5	134	18
	指定施設	67%	374	252	1	26	36	79	4	2	2	2	16	84
	計	64%	1,346	856	1	26	149	374	40	3	4	7	150	102
簡易昇降機	登録博物館	9%	972	91	—	—	19	39	5	—	—	—	24	4
	指定施設	11%	374	41	—	6	4	16	2	—	1	—	3	9
	計	10%	1,346	132	—	6	23	55	7	0	1	0	27	13
点字による案内	登録博物館	23%	972	225	—	—	72	117	7	—	—	4	20	5
	指定施設	24%	374	90	1	11	23	38	1	—	1	1	—	14
	計	23%	1,346	314	—	11	95	155	8	0	1	5	20	19
外国人向け案内	登録博物館	53%	972	518	—	—	111	209	32	3	1	5	140	17
	指定施設	54%	374	202	1	23	36	64	4	—	2	1	18	53
	計	53%	1,346	720	1	23	147	273	36	3	3	6	158	70

博 物 館 の 構 成

令和6年10月1日現在

	登録博物館 9 7 2	指定施設 3 7 4	博物館類似施設 4, 4 2 6	合 計 5, 7 7 2
国公立	6 5 2 ※博物館法上、国立の登録博物館はない	2 1 2 ※国・独立行政法人によるものは36館	3, 8 0 4 ※国・独立行政法人によるものは205館	小 計 4, 6 6 8
一般財団 法人立 公益財団 法人立	2 7 4	3 6	1 2 7	小 計 4 3 7
その他法人 等	4 6	1 2 6	4 9 5	小 計 6 6 7

※その他の法人には、登録博物館では宗教法人等、指定施設・博物館類似施設では宗教法人、株式会社立等がある。

・登録博物館

博物館法に基づき博物館資料、職員、施設、事業内容等に係る審査を経た上で、国民の教育、学術、文化の発展に寄与するものとして登録されたもの。

・指定施設

博物館法に基づき登録博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料、職員、施設、事業内容等に係る審査を経た上で、博物館に相当する施設として指定されたもの。

・博物館類似施設

博物館法の適用を受けない施設であるが、博物館と同種の事業を行うものとして、都道府県教育委員会で把握（社会教育調査の対象）しているもの。

令和8年度 博物館関係予算額 一覧

単位：千円

事 項	施 策 の 概 要	令和7年度 予 算 額	令和8年度 予 算 額	比 較 増 減 額	担当課等
1. 博物館機能強化の推進					
(1) 文化庁					
① Innovate MUSEUM 事業	博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信や、博物館における業務のDX化に効果的に取り組む館の事業を支援し、デジタル化されたデータの活用や業務フローの効率化を図るとともに、これからの博物館が新たに求められる社会的・地域的な課題（人口減少、社会包摂等）への対応に関する先進的な取り組みとして（1）MuseuDX推進、（2）地域課題対応事業、（3）ネットワークの形成による広域等課題対応事業、（4）企業立博物館と自治体の連携による地域還元型取組支援事業を支援し、その内製化と横展開を目指す。	274,063	249,851	△ 24,212	参事官（文化拠点担当）
② 新制度におけるミュージアム応援事業	①新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション、②博物館活動の質を高めるための体制整備、③博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施など、博物館の活動を後押しする基盤を構築する。	94,622	110,907	16,285	参事官（文化拠点担当）
2. 学芸員等の資質の向上					
(1) 文化庁					
① 博物館人材養成・質の向上	学芸員資格の認定、資質向上のために必要な研修の実施、学芸員等を国際会議や海外の博物館等に派遣し、国際的なネットワークの構築や我が国の博物館の国際プレゼンスの向上、博物館機能強化に繋げる。	（博物館機能強化 推進予算のうち） 50,322	（博物館機能強化 推進予算のうち） 47,873	△ 2,449	参事官（文化拠点担当）
② 新制度施行を踏まえた体制強化等を目指す館への専門的人材派遣	学芸員等の資質向上を図るため、博物館の現場に各分野の専門的人材を派遣し、実証事業を通じ、博物館における新しい取り組みを進めるための多様な専門人材の確保と学芸員の質の向上を図る。	（博物館機能強化 推進予算のうち） 17,500	（博物館機能強化 推進予算のうち） 35,628	18,128	参事官（文化拠点担当）
3. 文化拠点機能強化・地域文化観光推進プラン					
(1) 文化庁					
① 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業	文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環を生み出すことを目的とする「文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律」に基づく拠点計画及び地域計画の実施等のための事業について支援。	1,325,647	1,092,524	△ 233,123	参事官（文化拠点担当）
4. 文化資源の持続可能な活用の促進					
(1) 文化庁					
① 登録美術品制度の実施	国民の美術品を鑑賞する機会の拡大を図るため、「美術品の美術館における公開促進に関する法律」に基づき、登録美術品制度の円滑な実施を図る。	1,613	1,613	0	参事官（文化拠点担当）
② 文化遺産オンライン構想の推進	博物館・美術館等の収蔵品や国・地方の有形・無形の文化財情報を集約して発信する、ポータルサイトである文化遺産オンラインの充実を図る。	113,082	123,154	10,072	政策課
③ 国立アイヌ民族博物館の運営等	アイヌ施策推進法に基づき国立アイヌ民族博物館の管理運営費を計上。アイヌの歴史や文化に関する正しい認識と理解の促進のため、教育普及や展示・情報発信を充実する。	1,623,436	1,623,436	0	企画調整課

5. 博物館の高付加価値化					
(1) 文化庁					
① クリエイター等育成・文化施設高付加価値化支援事業 ・文化施設による高付加価値化機能強化支援	次代を担うクリエイター・アーティストの国内における活動・発信拠点となるべく文化施設における発信力の強化(デジタル・アーカイブ化含む)、新たな高い価値を文化芸術活動に付加する取組について、5年程度の活動目的の下で、3年程度弾力的かつ継続的に支援。	令和6年度～令和8年度 1,500,000		-	参事官(文化拠点担当)
6. 国際観光旅客税財源事業(※旅客税財源を活用。予算額は内数。)					
(1) 文化庁					
① 文化施設によるインバウンド振興支援事業	博物館、劇場、音楽堂などの文化施設のうち、アクセス数・来館者数・海外観光客の割合・満足度などの客観的指標を設定し効果検証を行うものについて、観覧環境の整備、収益施設の設置・改修等を支援することにより、各地の文化施設の魅力化と、地域の文化観光の担い手となる運営者の育成・参画促進を図る。	0	3,000,000	3,000,000	参事官(文化拠点担当) 参事官(芸術文化担当)
② 日本博による文化コンテンツの拡充	地域の多様な文化資源の付加価値向上による魅力ある文化コンテンツの創出、販路拡大等を通じた国際発信により、オーバツーリズムに配慮しつつ、日本各地への地方誘客を促進し、消費拡大を図るとともに、日本の文化芸術の多様性を世界に示す取り組みを積極的・戦略的に展開する。	4,020,000	4,500,000	480,000	文化経済・国際課
③ 博物館等所有文化財の公開促進支援事業	国宝・重要文化財の公開活用を促進し、訪日外国人観光客の増加や消費の拡大、満足度向上を促し、地域活性化の好循環創出を図るため、次の2事業を実施する。 ・国宝・重要文化財の常設展示のための環境等整備事業 ・地域ゆかりの文化遺産を活用した展覧会支援事業	209,595	420,000	210,405	美術学芸課
7. 東日本大震災関係					
(1) 文化庁					
① 被災ミュージアム再興事業	東日本大震災で被災した博物館資料の修理、修理した資料の整理・データベース化、応急処置を施した資料を収蔵する場所の確保等に必要な経費を支援する。	203,470	751,472	548,002	参事官(文化拠点担当)
8. 独立行政法人					
(1) 文化庁					
① 独立行政法人国立科学博物館の事業運営に必要な経費	事業運営に必要な経費	2,859,922	2,878,777	18,855	企画調整課
② 独立行政法人国立文化財機構の事業運営に必要な経費	事業運営に必要な経費	9,577,605	9,770,162	192,557	美術学芸課
③ 独立行政法人国立美術館の事業運営に必要な経費	事業運営に必要な経費	8,142,630	8,460,808	318,178	企画調整課
④ 独立行政法人国立美術館施設整備費	施設整備に必要な経費	100,000	300,000	200,000	企画調整課
(2) 文部科学省(科学技術・学術政策局)					
① 未来共創推進事業 (国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金の内数であるため推計額)	科学技術イノベーションにより社会的課題などへの対応を図るため、日本科学未来館における多様な科学コミュニケーション活動の推進、科学コミュニケーターの養成、多様な主体が対話・協働を行う日本最大級のオープンフォーラム「サイエンスアゴラ」の開催等、社会との共創に向けた取組を実施する。	3,162,702	3,162,702	0	科学技術・学術政策局人材政策課
合 計		31,776,209	36,528,907	4,752,698	

(参考)

※「子どもゆめ基金」による助成

独立行政法人国立青少年教育振興機構が設置する「子どもゆめ基金」事業により、民間団体が実施する博物館を含めた様々な場における子供の体験活動等に対し、引き続き助成を行う予定。

<http://yumekikin.nive.go.jp/>



博物館における学芸員等を対象とした研修・派遣事業

改正博物館法の施行にともない、収集保管・展示・調査研究等の「学芸業務」、管理運営・財務会計・評価等の「マネジメント業務」、広報・PR・デジタル化・ファンドレイズ等の「充実化や新規の取組が求められる業務」、いずれの職能も博物館における変化や新たな取組への対応がより一層求められることとなり、文化庁では令和4年度より以下の研修を実施している。

I 「文化をつなぐミュージアム」研修

1 事業の趣旨

博物館の設置者・行政職員等、博物館の中長期的な将来構想や地域課題の解決に関係する者に対して、これからの博物館に求められる基本的な知識に関する研修を行い、博物館の管理・運営に関わる人材の力量を高める。

2 事業の内容

- ①主 催 者 文化庁
- ②対 象 者 博物館及び設置団体の事務系職員、自治体等で博物館を所管又は登録事務を担当する職員、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者
- ③定 員 300名程度
- ④実施期間 令和8年9月（2日間）（予定）
- ⑤実施方式 オンライン

II ミュージアム パブリックリレーションズ研修

1 事業の趣旨

博物館の学芸員、専門職員等を対象に、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからの博物館に求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、ひいては博物館運営に関わることができる人材を育成する。

2 事業の内容

- ①主 催 者 文化庁
- ②対 象 者 博物館に勤務する学芸員等専門職員、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者
- ③定 員 対面40名程度＋オンライン300名程度（予定）
- ④実施期間 令和8年12月（4日間）（予定）
- ⑤実施場所 会場調整中＋オンライン

Ⅲ ミュージアムトップマネジメント研修

1 事業の趣旨

博物館の館長、管理職員等に対し、博物館の役割と機能、マネジメント、事業評価・改善等に関する専門知識、また、博物館を取り巻く社会の動向などについて学ぶ機会を提供し、博物館運営の責任者としての力量を高める。

2 事業の内容

- ① 主 催 者 文化庁、国立教育政策研究所
- ② 対 象 者 博物館及びそれに類似する施設の館長・副館長・管理職、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者
- ③ 定 員 対面30名程度＋オンライン200名程度（予定）
- ④ 実施期間 令和9年2月（3日間）（予定）
- ⑤ 実施方式 会場調整中＋オンライン

Ⅳ ミュージアム専門職員等在外派遣事業

1 事業の趣旨

博物館等に勤務する職員等を海外の博物館や博物館に関する国際会議等に派遣し、先進的な博物館事業や取組事例等の調査・研究、または博物館に関する国際会議等で自ら発信・発表を行う機会等を提供することで、当該職員の資質向上及び国際的なネットワークの構築や我が国の博物館の国際プレゼンスの向上を実現し、我が国の博物館の機能強化を図るもの。また、派遣成果を広く共有し、派遣者の勤務館での職務遂行だけではなく我が国及び地域の博物館における活動において有効活用することにより、我が国の博物館の機能強化につなげることを目的としている。

2 事業の内容

- ① 主 催 者 文化庁
- ② 派遣期間 短期派遣：7日以上45日未満
中期派遣：45日以上90日未満
特別派遣：14日未満（国際会議への参加）
※短期・中期は博物館等での調査・研究・視察を伴う派遣とする
- ③ 対 象 者 博物館に勤務する館長および学芸員等の専門職員、大学等において博物館法施行規則第一条に規定する博物館に関する科目（生涯学習概論は除く）について自ら教育研究を行うことを主たる職務とする者等で、以下の条件を満たす者とする。
 - 博物館や高等教育機関における実務経験を有すること
 - 海外の博物館関係者とネットワークを構築するために必要な語学力もしくはコミュニケーションスキルを有すること

- 海外の博物館・博物館関係団体での調査・研究等の受入、国際会議等への出席等が可能である保証があること
- 令和9年3月に実施予定の本事業の報告会での報告や、文化庁ホームページでの成果報告書の公開等、本事業での成果の普及や文化庁が行う国際的な調査事業等に協力できること
- 心身ともに健全であること

※すでに海外に在住している者、派遣終了後そのまま海外に居住する者は、本業の対象外とする。

④ 募集締切 令和8年3月31日（火）（募集終了）

⑤ 経 費

- 居住地から派遣地の国際空港までの往復の鉄道賃及び航空賃（エコノミークラスの実費）、到着時及び帰国時における空港-宿泊ホテル（または会場）間の交通費

※領収書など、日付や金額、経路がわかるものが必要となる。

- 滞在費（日当及び宿泊料）
- 航空保険特別料金、燃油特別付加運賃、空港使用料
- 大会参加費（国際会議等における発表者、学会等の執行役員、委員会メンバー等に限る）

⑥ 派遣人員 予算の範囲内で決定する。

⑦ 派遣先 派遣先会議、施設については、派遣者において確保すること。

令和8年度 学芸員・文化財保護専門技術者等の研修会等一覧（文化庁等関係）

※開催時期・期間等は今後変更の可能性あります

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
文化をつなぐミュージアム研修	博物館及び設置団体の事務系職員、自治体等で博物館を所管又は登録事務を担当する職員、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者	博物館の設置者・行政職員等、博物館の中長期的な将来構想や地域課題の解決に関係する者に対して、これからの博物館に求められる基本的な知識に関する研修を行い、博物館の管理・運営に関わる人材の力量を高める。	令和8年 9月（2日間） （予定）	オンライン配信	文化庁参事官 （文化拠点担当）付 博物館振興室	03-5253-4111 (内 3152)
	300名程度（予定）					
ミュージアム・パブリックリレーションズ研修	博物館に勤務する学芸員等専門職員、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者	博物館の学芸員、専門職員等を対象に、広報発信・地域交流、地域課題解決、デジタル化等、これからの博物館に求められる役割に必要な知識・技能を培う研修を行い、ひいては博物館運営に関わることができる人材を育成する。	令和8年 12月（4日間） （予定）	東京都内（未定）およびオンライン配信	文化庁参事官 （文化拠点担当）付 博物館振興室	03-5253-4111 (内 3152)
	40名程度（予定）					
ミュージアムトップマネジメント研修	博物館及びそれに類似する施設の館長・副館長・管理職、前記と同様の職務を行うと主催者が認める者	博物館の館長、管理職員等に対し、博物館の役割と機能、マネジメント、事業評価・改善等に関する専門知識、また、博物館を取り巻く社会の動向などについて学ぶ機会を提供し、博物館運営の責任者としての力量を高める。	令和9年 2月（3日間） （予定）	実地未定 およびオンライン配信	文化庁参事官 （文化拠点担当）付 博物館振興室	03-5253-4111 (内 3152)
	30名程度（予定）					
文化財行政講座	地方公共団体等の文化財行政担当職員等で、経験年数3年未満の者	文化財行政の遂行に必要な基礎的事項及び実務上の課題に関する研修	令和8年10月28～30日	京都府庁舎およびオンライン開催（予定）	文化庁文化資源政策・記念物課	計画推進係 075-451-4111 (内 9688)
	会場参加90名程度（予定）					
「文化財保存活用地域計画」研修会	地方公共団体等の文化財行政実務担当職員等	「文化財保存活用地域計画」の作成に必要な事項、実務上の課題、事例紹介に関する研修（実地研修含む）	令和8年10月頃（4日間）	広島県東広島市（予定）	文化庁文化資源政策・記念物課	計画推進係 075-451-4111 (内 9668)
	50名程度（予定）					
「文化財保存活用支援団体」研修会	地方公共団体等の文化財行政実務担当職員等	「文化財保存活用支援団体」の概要や指定のための基礎的事項についての研修	未定（開催する場合、令和7年2～3月頃）	未定	文化庁文化資源政策・記念物課	計画推進係 075-451-4111 (内 9668)
歴史民俗資料館等専門職員研修会	歴史民俗資料館、教育委員会等で資料（文化財を含む）の保存と活用にあたる専門職員で、原則として勤務経験5年未満の者	歴史資料、考古資料、民俗資料等の調査、収集・保存、公開等に必要な専門的研修を行う。	令和8年11月	国立歴史民俗博物館	文化庁参事官（伝統文化・生活文化担当）	調整係 075-451-4111 (内 9578)
	50名程度					
民俗文化財担当者会議	都道府県、政令指定都市民俗文化財担当者	民俗文化財事務の適正な遂行を図るため、これに従事する行政担当者に対して必要な事項の連絡等を行い、もって民俗文化財保護の充実を図る。	令和8年8月頃（予定）	オンライン配信	文化庁参事官（伝統文化・生活文化担当）	調整係 075-451-4111 (内 9578)
	60名程度					

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
指定文化財（美術工芸品）の活用と取扱いのための学芸員研修会	指定文化財(美術工芸品)を公開する博物館等の学芸担当者	国民全体の文化遺産である指定文化財（美術工芸品）の公開活用を促進し、適切な施設における展示・公開を支援するため、文化財の公開に関わる様々な専門的知識と技能の研修を行い、もってその資質の向上を図る。	令和８年８月	【座学】 オンライン配信 【実習】 東会場：東京国立博物館 西会場：京都国立博物館	美術学芸課	活用連携係 075-451-4111 (内 9703)
	20名程度×２会場					
文化財(美術工芸品)保存修理講習会	文化財(美術工芸品)の修理に携わる事業者等の技術者等および、文化財(美術工芸品)の修理を担当する地方公共団体の担当者、学芸員等	文化財修理に係る基礎的知識及び修理に関わる最新研究成果の研修を行うとともに、情報共有の機会を提供し、文化財(美術工芸品)の修理に対する理解を広げる。	令和８年12月頃（予定）	オンライン配信	美術学芸課	活用連携係 075-451-4111 (内 9703)
	500名程度					
国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会	教育委員会等および博物館等施設の防災・防犯対策担当者	都道府県教育委員会や美術館・歴史博物館の職員等に対し、国宝・重要文化財（美術工芸品）等の効果的な防災・防犯対策及び国庫補助事業の説明並びに文化財保護法上必要な手続きについての研修を実施し、文化財の適切な活用、保存及び継承を図る。	令和８年９月頃（予定）	オンライン配信	美術学芸課	活用連携係 075-451-4111 (内 9703)
	500名程度					
公開承認施設担当者会議	公開承認施設の学芸担当者および教育委員会等の公開承認施設事務担当者	都道府県教育委員会や公開承認施設の美術館・博物館の職員等に対し、国宝・重要文化財（美術工芸品）等の適切な保存管理及び安全な公開活用の事例紹介並びに保護法上必要な手続きについての説明を実施し、公開承認施設における文化財の適切な公開活用、保存及び継承を図る。	令和８年９月頃（予定）	オンライン配信	美術学芸課	活用連携係 075-451-4111 (内 9703)
	500名程度					
銃砲刀剣類登録事務協議・登録鑑定実技講習会	（登録事務協議） 銃砲刀剣類登録事務担当	銃砲刀剣類登録規則(昭和３３年文化財保護委員会規則第１号)に規定する、美術品若しくは骨董品として価値のある火縄式鉄砲等の古式銃砲又は美術品として価値のある刀剣類の登録に当たっての鑑定に関し、実技講習を行うことにより、登録審査委員の資質の向上を図り、もって銃砲刀剣類の登録事務のさらなる円滑化を図る。	冬頃開催（予定） （令和6年度は12月10日（水）に実施）	京都府庁舎およびオンライン配信の併用（予定）	美術学芸課	調査係 075-451-4111 (内 9709)
	各都道府県から１名		冬頃開催（予定） （令和6年度は12月11日（木）に実施）			
	（登録鑑定実技講習） 登録審査委員					
	各都道府県から２名					
埋蔵文化財担当職員等講習会	地方公共団体，公益法人等の埋蔵文化財担当職員等	発掘調査に当たり開発事業者等との協議を担当する地方公共団体の埋蔵文化財担当職員等に，埋蔵文化財行政に必要な知識を習得させることにより，円滑な発掘調査の実施を図ることを目的とする。	令和９年 １月２７日（水） ～１月２９日（金）	山梨県甲府市	文化資源政策・記念物課	埋蔵文化財部門 075-451-4111 (内 9764)

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
文化財マネジメント職員養成研修	地方公共団体，法人調査組織の文化財専門職員	文化財保存活用大綱及び文化財保存活用地域計画を策定するうえで，各地方公共団体において，文化財の価値を相対的に把握し，一体的な保存と活用を企画・立案する専門的な人材を養成することを目的とする。	令和8年 10月27日（火） ～10月30日（金）	福岡県福岡市	文化資源政策・記念物課	埋蔵文化財部門 075-451-4111 (内 9764)
	各80名程度					
文化的景観保護実務研修会（基礎コース）	地方公共団体において文化的景観に関係する業務に従事する職員等	制度の概要と運用における留意事項，保護の課題とその取り組み事例等について説明すると共に，国庫補助事業等に係る諸連絡やより良い制度運用に向けた情報提供を行う。	令和8年 5月15日（金）	オンライン開催	文化庁文化資源政策・記念物課	文化的景観部門 075-451-4111 (内 9769)
文化的景観保護実務研修会（実践コース）	地方公共団体において文化的景観に関係する業務に従事する職員等	文化的景観の保存活用に係る課題に対応する上で必要な専門的事項に関する研修	令和8年 10月22日（木） ～10月23日（金）	兵庫県朝来市	文化庁文化資源政策・記念物課	文化的景観部門 075-451-4111 (内 9769)
	各40名程度					
文化財建造物業務担当者連絡会	地方公共団体の文化財行政担当者	文化財建造物にかかる事務手続きの説明や保存活用にかかる取組の報告などを通じて，業務の理解促進及び担当者間の情報共有を図る。	令和8年 6月3日（水）	オンライン開催	文化庁建造物課	登録部門（建造物） 075-451-4111 (内 9755)
	120名程度					
伝統的建造物群保護行政研修会	地方公共団体の職員及び伝統的建造物群の保存に関わる専門家・技術者等	伝統的建造物群保存地区に関わる職務遂行に必要な基礎的事項に関する研修	令和8年 6月3日（水） ～6月5日（金）	富山県高岡市	文化庁建造物課	伝統的建造物群部門 075-451-4111 (内9771、9772)
(基礎コース)	50名程度					
文化財建造物修理主任技術者講習会	文化財建造物修理工事の設計または施工の監理等の実務経験を有する者	文化財建造物保存修理工事の主任技術者として必要な知識及び技術の研修 令和8年度は普通コース後期を実施。	令和8年 8月27日（木） ～9月4日（金）	京都府庁・文化庁京都庁舎	文化庁建造物課	修理指導部門 075-451-4111 (内 9684)
(普通コース)	30名程度					
文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会	文化財建造物修理主任技術者及び都道府県・市町村の文化財建造物担当者等	重要文化財建造物保存修理事業等の適正な遂行を図るため，技術上の総括的な指揮監督にあたる者と事業に伴う技術的諸問題について協議をし，もって修理技術の向上と設計監理業務の円滑な実施を図る。	令和8年 10月19日（月） (毎年10月第3月曜)	京都市内	文化庁建造物課	修理企画部門 075-451-4111 (内 9690)
	400名程度(予定)					

※この他「文化財を中核とする観光拠点形成に向けたオンライン講座」を文化庁HPIにて公開（http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/kankokyoten_koza/index.html）

学芸員専門研修アドバンスト・コース	自然科学系博物館等の学芸員等専門職員	自然科学系博物館等に勤務する中堅学芸員を対象に，一層の資質向上を目的として高度な内容の研修を行う。	令和8年 11月10日（火） ～11月13日（金）	国立科学博物館 筑波研究施設	独立行政法人 国立科学博物館	学習課 代表電話番号 03-3822-0111 内線 9187
	10名程度					

研修会名	対 象	趣 旨	開催時期・期間	場 所	担当課	連絡窓口
オンライン学芸員専門研修	主に博物館等において、自然科学系部門を担当する学芸員等 (経験年数概ね10年以内の者を優先)	博物館等に勤務する経験年数の少ない学芸員や職員等を対象に、一層の資質向上を目的として、オンラインによる研修を行う。	令和8年度下半期の 2日間程度	オンライン	独立行政法人 国立科学博物館	学習課 代表電話番号 03-3822-0111 (内 9187)
	30名程度					
独立行政法人国立美術館キュレーター研修	公私立美術館の学芸担当職員	公私立美術館の学芸担当職員を対象とした研修を実施し、その専門的知識及び技術の向上を図る。	4月1日～翌年3月31日の 期間で研修生の希望を踏まえ、受入館が承認した期間とする。	・東京国立近代美術館 ・国立工芸館 ・京都国立近代美術館 ・国立西洋美術館 ・国立国際美術館 ・国立新美術館	独立行政法人 国立美術館 国立アートリサーチセンター	管理グループ (研修担当) 03-6910-0449
	若干名					
博物館・美術館等保存担当学芸員研修（基礎コース）	国公立博物館・美術館等に勤務する資料保存担当者又は教育委員会等に勤務する社寺等の資料の保存担当者	展示・収蔵空間における環境管理に関する基礎的な知識及び技術についての講義・実習を行う。	【第1回】令和8年 7月27日（月） ～7月31日（金） 【第2回】令和9年 1月25日（月） ～1月29日（金）	東京国立博物館 黒田記念館セミナー室	独立行政法人 国立文化財機構 文化財活用センター	文化財活用センター 保存担当 03-5834-2856 (センター代表)
	第1回、第2回とも20名程度（募集締切）					
博物館・美術館等保存担当学芸員研修（上級コース）	博物館・美術館及び行政機関等で美術工芸品や歴史資料、民俗資料等の保存に携わる職員（常勤、非常勤を問わない）又は教育委員会等で文化財の保存に携わる職員で、過去に「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」（令和3年度以降は同研修（基礎コース））を受講した者、もしくは同等の経験を有する者で、研修の全期間にわたって受講できる者。	文化財保存に関する専門性の高い知識及び技術についての講義・実習を行う。	令和8年 7月6日（月） ～7月10日（金）	東京文化財研究所	独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所	東京文化財研究所保存科学研究センター 03-3823-4843
	30名程度(募集締切)					
文化財担当者研修	地方公共団体の文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財保護行政に必要な専門的知識と技術について研修を行う。	年間を通し、5日間程度の研修を12課程開催予定 (課程ごとにそれぞれ異なる。)	奈良文化財研究所 外	独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所	総務課 0742-30-6733 (内線255)
	各課程15名程度					
世界遺産研究協議会	世界遺産を有する若しくは目指す自治体の担当職員および世界遺産に関わる研究機関や団体の関係者	世界遺産委員会その他の国際会議等における世界遺産を巡る最新の動向を国内の関係者に発信するとともに、世界遺産が直面する今日的課題について、その背景や全体像、国内での取組みの情報共有を図る。	令和8年11～12月頃（予定）	東京文化財研究所	独立行政法人 国立文化財機構 東京文化財研究所	東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 03-3823-2244
	100名程度					

博物館機能強化推進事業

令和8年度予算額

361百万円

(前年度予算額)

369百万円)



背景・課題

令和5年4月改正の博物館法により、博物館資料のデジタル・アーカイブ化などの新たな業務が付加されるとともに、地域の活力向上のために関係機関と連携することなど、博物館の新たな役割が規定されることとなった。新たな法の趣旨を実現するためには、博物館が資料のデジタル・アーカイブ化や自身のDXの取組を積極的に進めつつ、文化芸術の価値を活かしながら、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野において、中核としての役割を果たす存在となる必要がある。この観点から、特に、5年間の経過措置期間（令和9年度まで）を集中期間として、博物館の資金・人材・施設等の基盤を強化し、特色ある取組を全国各地で推進する。

※博物館には、美術館、科学館、動物園、水族館等が含まれる。

事業内容

法改正を踏まえ、博物館のデジタル・アーカイブ化の取組や地域に貢献する特色ある取組を支援するとともに、新たな制度が効果的に運用されるよう基盤の整備を図る。

(1) Innovate MUSEUM事業 250百万円

① Museum DXの推進 43百万円

博物館資料のデジタル・アーカイブ化とその公開・発信や、博物館における業務のDXに効果的に取り組む館の事業を支援し、データの活用や業務フローの効率化を図る。

- 件数・単価：i) デジタルアーカイブ推進体制構築型 30百万円【補助率：定額】
ii) 博物館DX推進型 13百万円【補助率：2/3】

② 社会課題対応と博物館の機能強化支援 171百万円

これからの博物館が新たに求められる社会的・地域的な課題（地方創生、都市再生、人口減少、社会包摂等）や博物館の収益課題への対応に先進的に取り組む事業を支援し、その内製化と横展開を目指す。

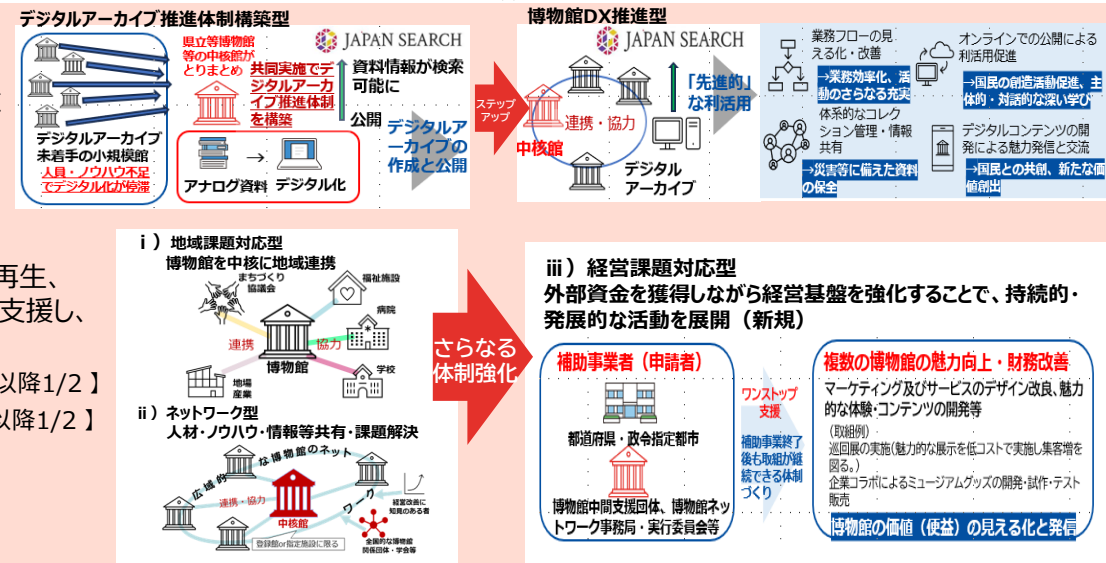
- 件数・単価：i) 地域課題対応型 21百万円【補助率：初年度2/3、次年度以降1/2】
ii) ネットワーク型 37百万円【補助率：初年度2/3、次年度以降1/2】
iii) 経営課題対応型 100百万円【補助率：2/3】（新規）
iv) 民間博物館活用型 13百万円【補助率：2/3】

※委託事務費 36百万円（①②）

(2) 新制度におけるミュージアム応援事業 111百万円

博物館法の改正を踏まえて、i) 新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション、ii) 博物館活動の質を高めるための体制整備、iii) 博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施など、博物館の活動を後押しする基盤を構築する。

- 件数・単価：i) 新たな登録制度の価値を高めるための積極的なプロモーション 2件×10百万円（登録博物館等のプロモーション）
ii) 博物館活動の質を高めるための体制整備 1件×36百万円（博物館への専門的人材派遣）
iii) 博物館人材養成・質の向上に資する研修等の実施 55百万円（学芸員資格認定、国による学芸員研修、在外派遣）



アウトプット(活動目標)

- 支援した博物館による課題解決や博物館の新たな価値創出の取組の数

令和6年	令和7年	令和8年
28	29	34

- 博物館人材養成・質の向上に資する研修等に参加する数

令和6年	令和7年	令和8年
430	430	430

短期アウトカム(成果目標)

初期（令和8年頃）

事業による取組への支援と横展開、博物館職員への研修を通じ、地域の主体や博物館同士の連携による課題解決や価値創出に取り組む博物館が増加。（達成度70%）

中期（令和10年頃）

登録博物館及び指定施設での取組の浸透。（達成度100%）

長期（令和15年頃）

登録・指定館が増加するとともに取組がさらに多くの館園に広がる。

長期アウトカム(成果目標)

博物館界全体に、課題解決に向けた地域等との連携や新たな価値創出の取組が浸透することで広く国民に博物館の社会的価値が認知される。

博物館の活動基盤が強化されることで、博物館がより充実したサービスを国民に提供し、もって国民の教養や創造活動に資することができるようになる「好循環」が形成される。

（担当：文化庁参事官（拠点担当））

目的

博物館の役割が多様化、高度化している現状において、その役割を果たすための技術や知識を持った人材が不足していることが課題となっていることから、学芸員等の資質向上を図るため、博物館の現場に各分野の専門的人材を派遣し、実証事業を通じ、博物館における新しい取り組みを進めるための多様な専門人材の確保と学芸員の質の向上を図る。

事業概要

・ デジタルアーカイブ、コンテンツ造成支援、知識・技術の提供

博物館におけるデジタルアーカイブの作成やDXに資するような整備、資料の価値や魅力を伝えるためのコンテンツ造成などに取り組む内容など

・ 展示や広報発信の改善を行うための支援、知識・技術の提供

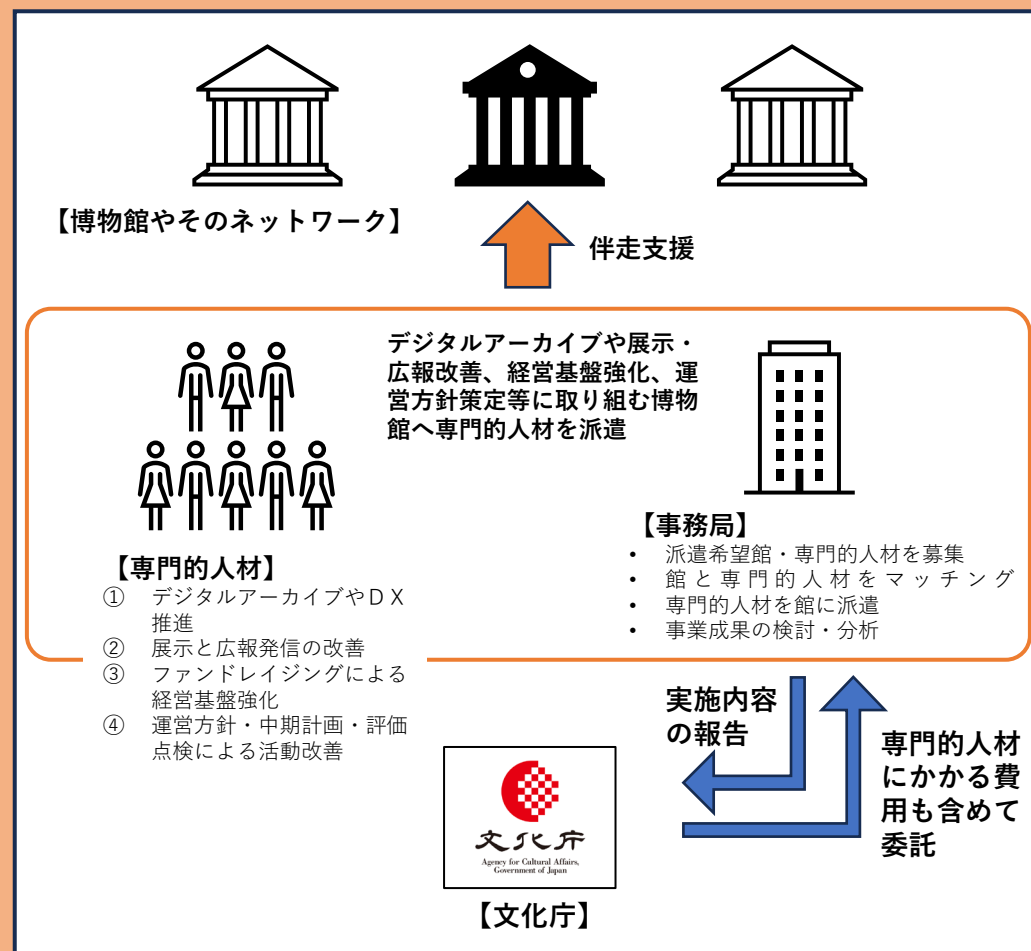
観光来訪者への対応や、これからの博物館に求められる社会的価値形成のための、楽しく理解を深めることができる展示や広報発信の改善を行う取組

・ ファンドレイジング活動支援、知識・技術の提供

多様な博物館支援を集め、博物館活動の充実に繋げるためのファンドレイジングの取組

・ 運営方針・中期計画・評価点検に関する知識・技術の提供

博物館の運営方針や中期計画の策定、事業成果の測定・可視化や、活動改善のための評価の導入及び実施に係る取組



文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業

令和8年度予算額
(前年度予算額)

1,093百万円
1,353百万円) 文化庁

現状・課題

文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環の実現にあたっては、文化についての理解を深める機会の拡大及び国内外からの観光旅客の来訪促進が重要。文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、文化観光推進法に基づき主務大臣により認定された計画に基づく事業等に対して支援を行う。

事業内容

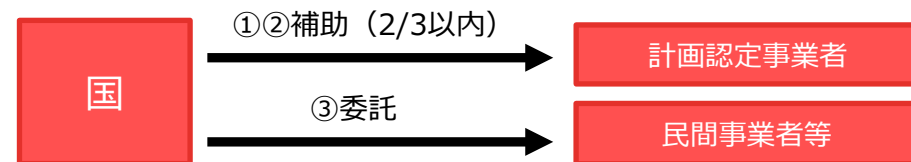
- ①文化観光拠点としての機能強化に資する事業に対する支援（拠点計画）
- ②地域における文化観光の総合的かつ一体的な推進に資する事業に対する支援（地域計画）

945百万円

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光を推進するため、文化観光推進法に基づき主務大臣により認定された計画に基づく事業に対して支援を行う。
※補助率2/3以内 ※30箇所程度

- ③計画の推進等のための支援（委託）
- 計画推進を支援するために専門家の派遣や好事例の展開等の伴走支援を実施。
 - 計画作成にあたって、事業設計やコンセプトの設定といった伴走支援を実施するほか、事業内容の説明会やセミナーを実施し、裾野拡大に取り組む。
 - 計画期間が終了した計画について、フォローアップ調査による成果、課題の分析を実施。
 - 文化観光推進法に関する周知啓発や情報発信、好事例の展開を実施。

125百万円



アウトプット（活動目標）

文化観光推進事業者と連携して補助対象事業を実施する事業者数（累計）

令和6年度	令和7年度	令和8年度
60程度	70程度	80程度

短期アウトカム（成果目標）

認定計画で設定した国内来訪者数の目標を達成した計画数の割合

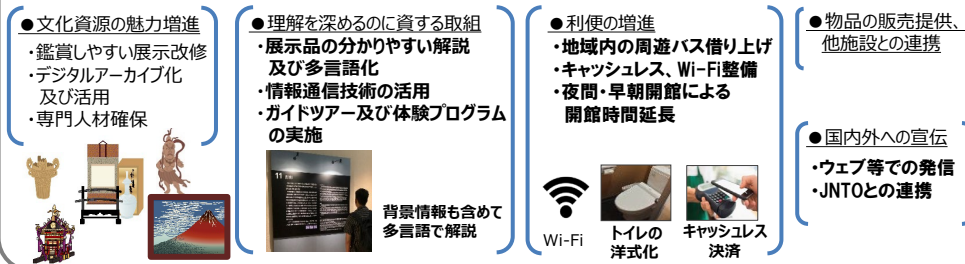
令和2年度 63% → **令和8年度 80%**
(達成度78.8%)

長期アウトカム（成果目標）

認定計画で設定した来訪者満足度の目標を達成した計画数の割合

令和2年度 64.7% → **令和8年度 80%**
(達成度80.9%)

拠点計画（文化観光拠点施設）において実施する事業のイメージ



地域計画において実施する事業のイメージ



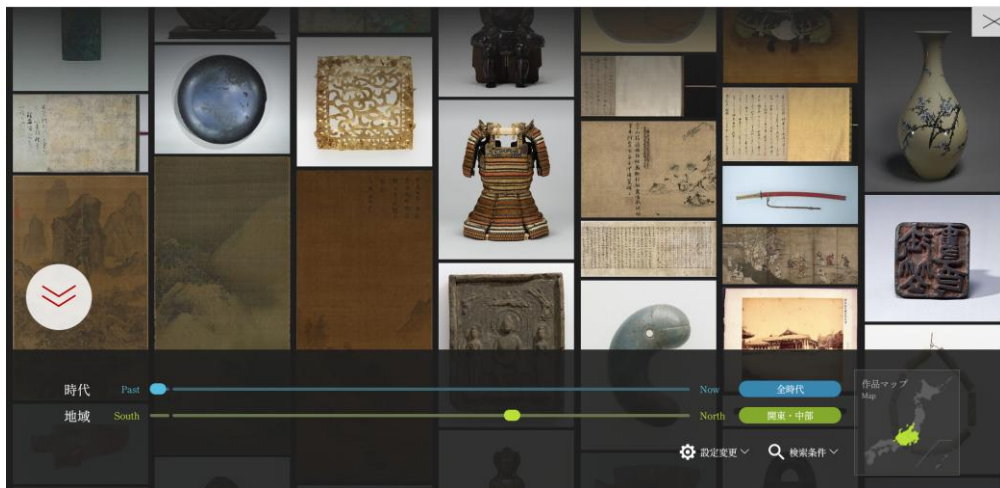
コンセプト：「文化財との新しい出会いを提供」

広く一般に向けた文化財情報への入り口として、直接的な情報検索の利便向上だけでなく、利用者の興味・関心の向上や知的好奇心の喚起に資するポータルサイトを目指します。

(文化遺産オンライン： <https://online.bunka.go.jp/>)

(紹介動画： https://www.youtube.com/playlist?list=PL_ndIdJX38cCdA27IHioTOk9n9hen_D0A)

- スマホ・タブレット対応
- デザイン、ビジュアルの刷新
- デジタルビューア機能「日本列島タイムマシンナビ」の導入
- 英語表記の追加



(日本列島タイムマシンナビ)



(トップページ)



(紹介動画)

- 「文化遺産オンライン」は、**全国の博物館・美術館等に収蔵される文化遺産に関する情報**を、指定・未指定を問わず広く収集し、**検索・閲覧できるポータルサイト**です。我が国に所在する文化遺産情報の総覧を可能とすることを目指し、文化庁が運営しています。
- 文化庁では、**文化遺産オンラインへ情報を登録していただける博物館・美術館等を広く募集**しています。**所蔵品の情報・写真**はもちろん、**博物館のお知らせ・イベント情報を掲載することが可能**ですので、所蔵品をホームページで公開したいが経費等の問題で難しい場合や、展覧会等の情報を広く発信したい場合など、様々な用途に活用できます。是非ご登録ください。（<https://online.bunka.go.jp/>）

（イメージ図）

検索・閲覧



◆ 所蔵作品の情報

情報を提供する博物館・美術館の所蔵品を含め、文化遺産オンラインの全ての情報を検索できます。

- 登録件数 : **346,818**件
- 所蔵館数 : **310**館
- アクセス数 : **1,673**万回/年間

◆ 美術館・博物館の情報

全国の美術館・博物館の名称、所在地、開館時間、紹介文、館サイトURL等の情報を掲載しています。

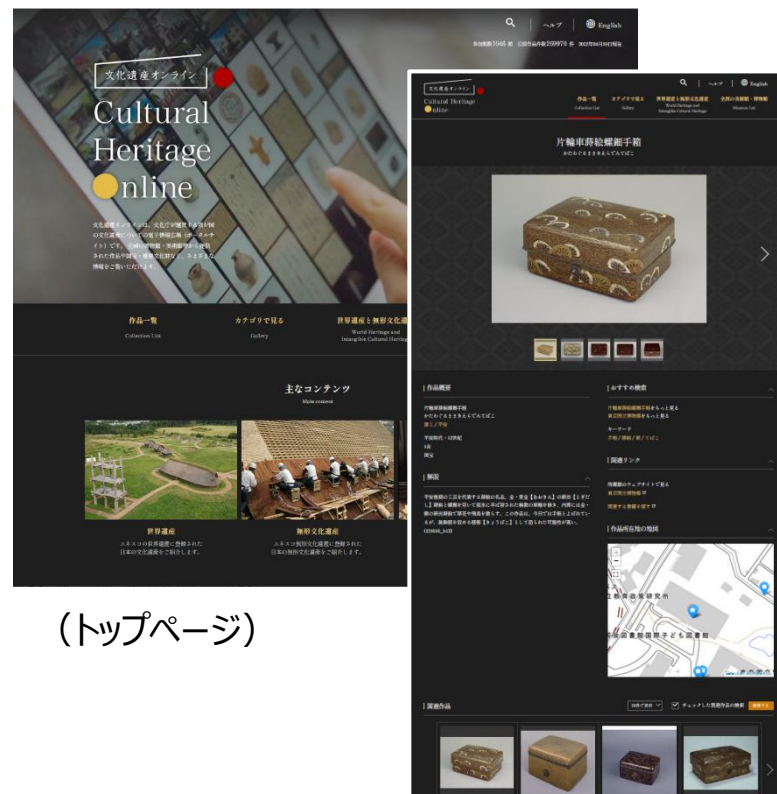
- 掲載館数 : **1,089**館

※ 数値はいずれも令和8年4月時点

情報登録



博物館・美術館



（トップページ）

（個別情報ページ） 23

登録館別サイトの作成機能

- 文化遺産オンラインへ参加している博物館・美術館が、**館ごとの個別ページを作成できる機能**です。
- 各博物館・美術館からのお知らせや所蔵品の検索が、個別のページでより簡単にできるようになります。予め用意されたテンプレートデザインから選択することで、**簡単なステップ**で、館独自のページが作成できます。また、文化遺産オンラインのサーバを利用するため、**各館には維持管理コストがかかりません。各館の独自ホームページとしても活用可能**です。
- 御関心があれば、まずは文化遺産オンライン（<https://online.bunka.go.jp/>）へ登録をご検討ください。
※館別サイトは文化遺産オンラインへ所蔵品情報を掲載している館が利用できる機能です。ご利用に関する問合せは、online@mext.go.jpまで。

(イメージ図)



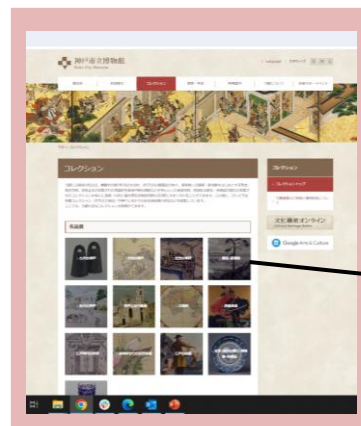
日本語⇄英語
切替機能

イベントの
お知らせ表示

所蔵作品の
検索機能

外部連携機能（検索用API）

文化遺産オンラインの外部連携機能（検索用API）を活用することで、独自にデータベースを整備することなく、**文化遺産オンラインに登録した作品情報を自館のホームページ等で公開、閲覧・検索できるサービスを提供**しています。



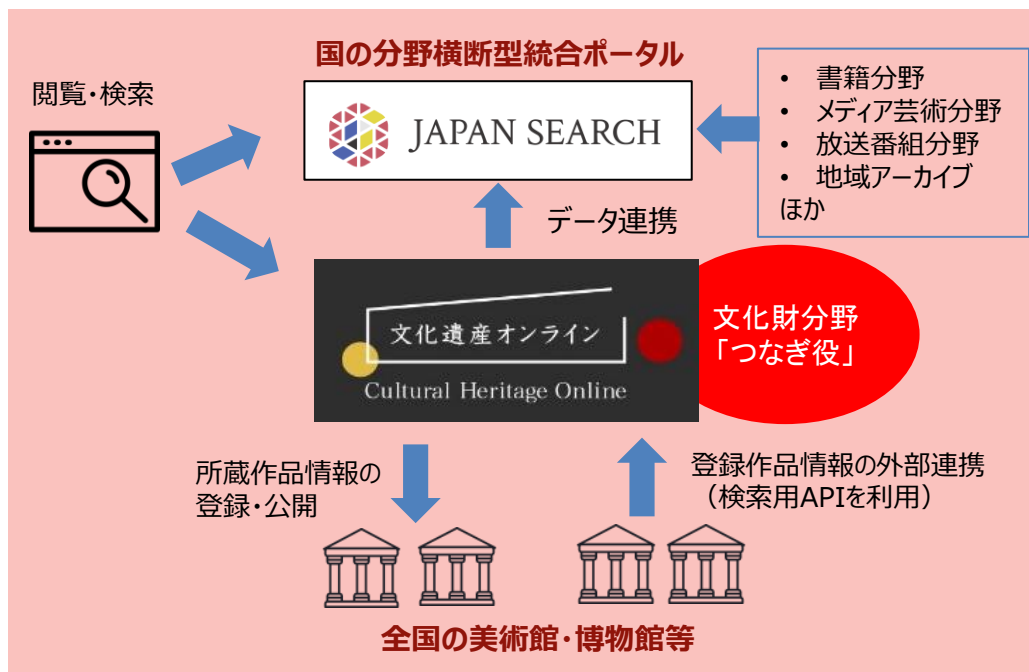
自館ホームページ等で作品情報を公開
（検索も可能）

引用：神戸市立博物館ウェブサイト（<https://www.kobecitymuseum.jp/>）

ジャパンサーチとの連携

文化遺産オンラインは、文化財分野の「つなぎ役」として、ジャパンサーチ※とデータ連携を行っています。**登録した情報はジャパンサーチでも閲覧・検索可能**になるため、所蔵品の情報を広く公開することができます。

※書籍等分野、文化財分野、メディア芸術分野など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「国の分野横断型統合ポータル」



文化遺産オンラインに登録し、本サイトを是非ご活用ください。

現状・課題

東日本大震災で被災した博物館等から海水・泥にまみれた古文書、生物標本、民俗資料、考古資料、歴史資料、写真資料、絵画資料等を救出したが、それらの文化財等資料については、洗浄するとともにカビや腐敗を防止する処理により安定化し、その上で修復をしていく必要がある。本事業では、東日本大震災によって被害を受けた美術館・博物館について、被災した資料を修理し、美術館・博物館の機能・役割を回復させる。



被災した博物館等の例

事業内容

県が実施する東日本大震災で被災した博物館資料の修理、修理した資料の整理・データベース化、応急措置を施した資料を収蔵する場所の確保、被災した博物館の復興に資する事業等に必要な経費について補助を行う。

※修理技術が確立していない被災した博物館資料については、技術開発、試験、作業の標準化から修理作業までを一貫した複数年度にわたる取組として支援する。



修理



汚染物質の計測、分析

アウトプット（活動目標）

○海水や汚泥の被害を受けた資料の修理・保管

アウトカム（成果目標）

○適切に修理及び管理が行われることにより、被災地の心の支えとして被災資料が活用される

インパクト（国民・社会への影響）、目指すべき姿

○美術館・博物館は、地域の文化芸術活動の場のみならず、観光や地域ブランドづくりの場でもあるため、本事業により美術館・博物館の機能・役割を回復させることにより、地域の再興及び東日本大震災からの復興を目指す

博物館に対する税制上の優遇措置について

1. 登録博物館に関する優遇措置（国税関係）

博物館事業の実施主体に係る優遇措置	
博物館※において標本等として用いる物品を輸入し又は寄贈された場合の関税の免除	博物館等が、標本等として用いる物品を輸入した場合、又は当該物品を寄贈された場合には、関税は免除される。 ※国及び地方公共団体が設置する博物館は登録を受けているかどうかにかかわらず対象
博物館を支援する者に係る優遇措置	
博物館への贈与及び遺贈のみなし譲渡所得の非課税	個人が財産を公益社団・財団法人、特定一般法人その他の公益を目的とする事業を行う法人に贈与又は遺贈をする場合で、一定の要件を満たすものとして国税庁長官の承認を受けた場合には、当該財産の贈与又は遺贈はなかったものとみなされ、みなし譲渡所得課税の規定は適用されず、所得税は課税されない。
博物館※に寄託している登録美術品についての相続税の物納順位の特例	納付すべき相続税額を延納によっても納付することが困難な場合、美術品の美術館における公開の促進に関する法律に規定する登録美術品（相続時に既に登録を受けているものに限る。）を相続税の物納に充てることができる。その際、物納の優先順位が通常の動産については第三位であるが、当該美術品については、第一位に繰り上げられる。 ※ 博物館相当施設も対象
博物館※に寄託している特定美術品についての相続税の納税猶予及び免除の特例	文化財保護法に基づく保存活用計画を策定し、国の認定を受けて美術館等に寄託・公開された重要文化財・登録有形文化財（美術工芸品）については相続税の納税猶予の特例が認められている。 ※ 博物館相当施設も対象
博物館の事業に供するための土地収用に伴い土地等を譲渡した場合の譲渡所得の特別控除	収用等に伴い、博物館を設置運営する法人に土地等を譲渡する場合には、譲渡所得の特別控除又は代替資産の取得に伴う特例の適用を受ける。

2. 博物館に関する優遇措置（地方税関係）

博物館事業の実施主体に係る優遇措置	
博物館の事業に対する事業所税の非課税	博物館を設置する法人の博物館の事業に対する事業所税が非課税とされている。
博物館において直接その用に供する固定資産に対する固定資産税・都市計画税の非課税	博物館を設置する公益社団・財団法人及び宗教法人は、直接その用に供する固定資産に対する固定資産税・都市計画税が非課税とされている。
博物館において直接その用に供する不動産の取得に対する不動産取得税の非課税	博物館を設置する公益社団・財団法人及び宗教法人は、直接その用に供する不動産の取得に対する不動産取得税が非課税とされている。
博物館の設置を主の目的とする者に対する法人住民税の非課税	博物館の設置を主の目的とする公益社団・財団法人は法人住民税が非課税とされている（収益事業を行う場合はこの限りでない）。

優遇措置のある税目	登録博物館					指定施設
	公立	私立				
		公益法人	宗教法人	一般社団・ 財団法人	民間会社等	
法人住民税の非課税	－	○				
固定資産税の非課税	－	○	○			
都市計画税の非課税	－	○	○			
不動産取得税の非課税	－	○	○			
事業所税の非課税	－	○	○	○	○	

3. 登録の有無にかかわらず博物館を設置する主体により受けられる優遇措置

博物館を支援する者に係る優遇措置	
特定公益増進法人に対する寄付金の特例	独立行政法人、博物館等の設置及び管理を主目的とする地方独立行政法人、公益社団・財団法人、学校法人、社会福祉法人等に対する寄附金は、特定公益増進法人に対する寄附金として、寄附金控除又は寄附金損金算入の特例の適用を受ける。

美術品補償制度について

1. 美術品補償制度とは

- 美術品補償制度とは、展覧会において海外等から借り受けた美術品に、万一損害が発生した場合に、その損害を国が補償する制度。
- 第 177 回通常国会において成立した「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」（以下「美術品補償法」という。）に基づき、制度が創設された。（平成 23 年 6 月施行）

2. 制度創設の背景

- 近年、美術品の評価額の高騰や保険料率の上昇のため、展覧会主催者の損害保険料の負担が大きくなっている。このため、海外の優れた美術品を取り扱う大規模展覧会や地方巡回展の開催が困難になるとともに、展覧会の規模の縮小や開催の断念などの問題が顕在化している。
- このような状況を踏まえ、質の高い展覧会が、地方美術館を含め広く全国で開催され、優れた美術品を多くの国民が鑑賞できるよう、借り受けた美術品の損害を政府が補償することが必要。

3. 「展覧会における美術品損害の補償に関する法律」の概要

- 展覧会のために借り受けた美術品の損害につき、政府がその損害を補償する契約を締結できることを定める。
- 損害総額の一定部分は主催者が負担、それを超える部分を国が補償する。（ただし、補償上限額（＝950 億円）を定める）。
《主催者の負担分》一般的な損害：50 億円 地震・テロ等による損害：1 億円
- 毎年度の補償契約の締結の限度額を予算（予算総則）で定める。
- 文化審議会の意見聴取及び財務大臣協議を経て、対象となる展覧会を決定する。

4. 美術品補償制度の運用状況

- 令和 8 年 4 月 1 日現在、60 件の展覧会の補償契約を締結。（別紙参照）
- 補償対象展覧会は、随時、審査を行い決定する。
- 令和 8 年度予算の予算総則において、補償契約締結限度額として 5,180 億円を計上している。

5. 美術品補償制度の在り方に関する検討

- 平成 27 年 6 月 30 日に閣議決定された規制改革実施計画において、民間事業者等の要望に応える見直しとして、展覧会における美術品損害の補償契約の手続き合理化について、「美術品補償制度適用のための文部科学大臣宛ての申請書類について、2 回目以降の申請においては、施設や設備に関する書類の提出を一定期間免除するなどの簡略化をする方向で検討し、必要な措置を講ずる」ことが定められ、平成 28 年 3 月 29 日付けで施行規則の一部改正を行った。
- また、平成 29 年度及び令和 5 年度に制度に係る調査研究（国内の展覧会の実施状況、海外における美術品補償制度の運用状況に関する調査等）を実施し、その結果を踏まえ、制度等の改善方策について検討している。

美術品補償制度適用展覧会の一覧

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
1	プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影	国立西洋美術館 (平成23年10月22日～平成24年 1月29日)
2	生誕100年 ジャクソン・ポロック展	愛知県美術館 (平成23年11月11日～平成24年 1月22日) 東京国立近代美術館 (平成24年 2月10日～平成24年 5月 6日)
3	特別展 北京故宮博物院200選	東京国立博物館 (平成24年 1月 2日～平成24年 2月19日)
4	カミーユ・ピサロと印象派 永遠の近代	宇都宮美術館 (平成24年 3月24日～平成24年 5月27日) 兵庫県立美術館 (平成24年 6月 6日～平成24年 8月19日)
5	セザンヌ パリとプロヴァンス	国立新美術館 (平成24年 3月28日～平成24年 6月11日)
6	国立トレチャコフ美術館所蔵 レービン展	Bunkamura ザ・ミュージアム (平成24年 8月 4日～平成24年10月 8日) 浜松市美術館 (平成24年10月16日～平成24年12月24日) 姫路市立美術館 (平成25年 2月16日～平成25年 3月30日) 神奈川県立近代美術館 葉山 (平成25年 4月 6日～平成25年 5月26日)
7	リヒテンシュタイン 華麗なる公爵家の秘宝	国立新美術館 (平成24年10月 3日～平成24年12月23日) 高知県立美術館 (平成25年 1月 5日～平成25年 3月 7日) 京都市美術館 (平成25年 3月19日～平成25年 6月 9日)
8	特別展 中国 王朝の至宝	東京国立博物館 (平成24年10月10日～平成24年12月24日) 神戸市立博物館 (平成25年 2月 2日～平成25年 4月 7日) 名古屋市博物館 (平成25年 4月24日～平成25年 6月23日) 九州国立博物館 (平成25年 7月 9日～平成25年 9月16日)
9	ラファエロ	国立西洋美術館 (平成25年 3月 2日～平成25年 6月 2日)
10	フランシス・ベーコン展	東京国立近代美術館 (平成25年 3月 8日～平成25年 5月26日) 豊田市美術館 (平成25年 6月 8日～平成25年 9月 1日)
11	「印象派を超えて―点描の画家たち ～ゴッホ、スーラからモンドリアンまで」	国立新美術館 (平成25年10月 4日～平成25年12月23日) 広島県立美術館 (平成26年 1月 2日～平成26年 2月16日) 愛知県美術館 (平成26年 2月25日～平成26年 4月 6日)
12	特別展「上海博物館 中国絵画の至宝」	東京国立博物館 (平成25年10月 1日～平成25年11月24日)
13	オルセー美術館展 印象派の誕生 ―描くこと の自由―	国立新美術館 (平成26年 7月 9日～平成26年10月20日)
14	特別展「台北 國立故宮博物院―神品至宝―」	東京国立博物館 (平成26年 6月24日～平成26年 9月15日) 九州国立博物館 (平成26年10月 7日～平成26年11月30日)
15	現代美術のハードコアはじつは世界の宝である展 ―ヤゲオ財団コレクションより	東京国立近代美術館 (平成26年 6月20日～平成26年 8月24日) 名古屋市美術館 (平成26年 9月 6日～平成26年10月26日) 広島市現代美術館 (平成26年12月20日～平成27年 3月 8日) 京都国立近代美術館 (平成27年 3月31日～平成27年 5月31日)
16	ホイットラー展	京都国立近代美術館 (平成26年 9月13日～平成26年11月16日) 横浜美術館 (平成26年12月 6日～平成27年 3月 1日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
17	ルーヴル美術館展 日常を描く―風俗画にみるヨーロッパ絵画の 真髄	国立新美術館 (平成27年 2月21日～平成27年 6月 1日) 京都市美術館 (平成27年 6月16日～平成27年 9月27日)
18	マグリット展	国立新美術館 (平成27年 3月25日～平成27年 6月29日) 京都市美術館 (平成27年 7月11日～平成27年10月12日)
19	マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展 ―「印象、日の出」から「睡蓮」まで―	東京都美術館 (平成27年 9月19日～平成27年12月13日) 福岡市美術館 (平成27年12月22日～平成28年 2月21日) 京都市美術館 (平成28年 3月 1日～平成28年 5月 8日) 新潟県立近代美術館 (平成28年 6月 4日～平成28年 8月21日)
20	プラド美術館展 ―スペイン宮廷 美への情熱―	三菱一号館美術館 (平成27年10月10日～平成28年01月31日)
21	特別展 黄金のアフガニスタン ―守りぬかれたシルクロードの秘宝―	九州国立博物館 (平成28年 1月 1日～平成28年 2月14日) 東京国立博物館 (平成28年 4月12日～平成28年 6月19日)
22	オルセー美術館・オランジュリー美術館所蔵 ルノワール展	国立新美術館 (平成28年 4月27日～平成28年 8月22日)
23	大阪市立美術館開館80周年記念 日本書芸院 創立70周年記念 特別展「王羲之から空海へ ―日中の名筆 漢 字とかなの競演」	大阪市立美術館 (平成28年 4月12日～平成28年 5月22日)
24	ゴッホとゴーギャン展	東京都美術館 (平成28年10月8日～平成28年12月18日) 愛知県美術館 (平成29年1月3日～平成29年3月20日)
25	オルセーのナビ派展:美の預言者たち ―ささや きとざわめき	三菱一号館美術館 (平成29年2月4日～平成29年5月21日)
26	ジャコメッティ展	国立新美術館 (平成29年6月14日～平成29年9月4日) 豊田市美術館 (平成29年10月14日～平成29年12月24日)
27	ゴッホ展 巡りゆく日本の夢	北海道立近代美術館 (平成29年8月26日～平成29年10月15日) 東京都美術館 (平成29年10月24日～平成30年1月8日) 京都国立近代美術館 (平成30年1月20日～平成30年3月4日)
28	北斎とジャポニスム	国立西洋美術館 (平成29年10月21日～平成30年1月28日)
29	至上の印象派展 ビュールレ・コレクション	国立新美術館 (平成30年2月14日～平成30年5月7日) 九州国立博物館 (平成30年5月19日～平成30年7月16日) 名古屋市美術館 (平成30年7月28日～平成30年9月24日)
30	プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光	国立西洋美術館 (平成30年2月24日～平成30年5月27日) 兵庫県立美術館 (平成30年6月13日～平成30年10月14日)
31	ルーヴル美術館展 肖像芸術 ― 人は人をどう表現してきたか	国立新美術館 (平成30年5月30日～平成30年9月3日) 大阪市立美術館 (平成30年9月22日～平成31年1月14日)
32	ピエール・ボナール展	国立新美術館 (平成30年9月26日～平成30年12月17日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
35	ラファエル前派の軌跡展	三菱一号館美術館 (平成31年3月14日～令和元年6月9日) 久留米市美術館 (令和元年6月20日～令和元年9月8日) あべのハルカス美術館 (令和元年10月5日～令和元年12月15日)
36	クリムト展	東京都美術館 (平成31年4月23日～ 令和元年7月10日) 豊田市美術館 (令和元年7月23日～令和元年10月14日)
37	ウィーン・モダン展	国立新美術館 (平成31年4月24日～令和元年8月5日) 国立国際美術館 (令和元年8月27日～令和元年12月8日)
38	松方コレクション展	国立西洋美術館 (令和元年6月11日～令和元年9月23日)
39	コートールド美術館展	東京都美術館 (令和元年9月10日～令和元年12月15日) 愛知県美術館 (令和2年1月3日～令和2年3月15日) 神戸市立博物館 (令和2年3月28日～令和2年6月21日) ※感染症の影響により、以下の通り変更 東京都美術館 (令和元年9月10日～令和元年12月15日) 愛知県美術館 (令和2年1月3日～令和2年3月1日)
40	オランジェリー美術館コレクション	横浜美術館 (令和元年9月21日～令和2年1月13日)
41	ピーター・ドイグ展	東京国立近代美術館 (令和2年2月26日～令和2年10月11日) ※感染症の影響による中止期間: 令和2年2月29日～令和2年6月11日
42	ゴッホ展 ― 響きあう魂 ヘレーネとフィンセント	東京都美術館 (令和3年9月18日～令和3年12月12日) 福岡市美術館 (令和3年12月23日～令和4年2月13日) 名古屋市美術館 (令和4年2月23日～令和4年4月10日)
43	スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち	東京都美術館 (令和4年4月22日～令和4年7月3日) 神戸市立博物館 (令和4年7月16日～令和4年9月25日) 北九州市立美術館 (令和4年10月4日～令和4年11月20日)
44	歿後50年 ピカソ 青の時代を超えて Picasso: The Blue Period and Beyond	ポーラ美術館 (令和4年9月17日～令和5年1月15日) ひろしま美術館 (令和5年2月4日～令和5年5月28日)
45	四一ヴァル美術館展 愛を描く	国立新美術館 (令和5年3月1日～令和5年6月12日) 京都市京セラ美術館 (令和5年6月27日～令和5年9月24日)
46	ロオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才	東京都美術館 (令和5年1月26日～令和5年4月9日)
47	マティス展 Henri Matisse:The Path to Color	東京都美術館 (令和5年4月27日～令和5年8月20日)
48	デイヴィッド・ホックニー展	東京都現代美術館 (令和5年6月26日～令和5年11月30日)

展覧会情報		
No.	展覧会名	会場(会期)
49	パリボンビドゥーセンター キュビズム展-美の革命	国立西洋美術館 (令和5年10月3日～令和6年1月28日) 京都市京セラ美術館 (令和6年3月20日～令和6年7月7日)
50	ゴッホと静物画展―伝統から革新へ	SOMPO美術館 (令和5年10月17日～令和6年1月21日)
51	マティス 自由なフォルム	国立新美術館 (令和6年2月14日～令和6年5月27日)
52	カナレットとヴェネツィアの輝き	静岡県立美術館 (令和6年7月27日～令和6年9月29日) SOMPO美術館 (令和6年10月12日～令和6年12月28日) 京都文化博物館 (令和7年2月15日～令和7年4月13日) 山口県立美術館 (令和7年4月24日～令和7年6月22日)
53	ルイーズ・ブルジョワ展 地獄から帰ってきたところ 言っとくけど、素晴らしかったわ	森美術館 (令和6年9月25日～令和7年1月19日)
54	モネ 睡蓮のとき	国立西洋美術館 (令和6年10月5日～令和7年2月11日) 京都市美術館 (令和7年3月7日～令和7年6月8日) 豊田市美術館 (令和7年6月21日～令和7年9月15日)
55	ミロ展	東京都美術館 (令和7年3月1日～令和7年7月6日)
56	ゴッホ展 家族がつないだ画家の夢	大阪市立美術館 (令和7年7月5日～令和7年8月31日) 東京都美術館 (令和7年9月12日～令和7年12月21日) 愛知県美術館 (令和8年1月3日～令和8年3月23日)
57	大ゴッホ展 夜のカフェテラス	神戸市立博物館 (令和7年9月20日～令和8年2月1日) 福島県立美術館 (令和8年2月21日～令和8年5月10日) 上野の森美術館 (令和8年5月29日～令和8年8月12日)
58	オルセー美術館所蔵 印象派―室内をめぐる物語	国立西洋美術館 (令和7年10月25日～令和8年2月15日)
59	クロード・モネ ―風景への問いかけ展	アーティゾン美術館 (令和8年2月7日～令和8年5月24日)
60	ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ＝リヒャルト美術館所蔵	宇都宮美術館 (令和8年4月19日～令和8年6月21日) あべのハルカス美術館 (令和8年7月4日～令和8年9月9日) 名古屋市美術館 (令和8年9月19日～令和8年11月29日)

海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律について

1. 立法の背景

- 海外の民間美術館や個人等が美術品等を貸出すに当たって、強制執行等の禁止措置が担保されていることを条件とされ、日本の美術館等が借り受けることが困難な事例が発生している。(多くの先進国では強制執行等の禁止の措置が既に整備されている。)
※外国政府等所有の美術品等については、平成 21 年に主権免除法が成立し、我が国の民事裁判権の対象外となっている。
- このような状況を踏まえ、海外の美術品等に対する強制執行等の禁止の措置を定めることが必要とされ、第 177 回通常国会において議員立法により成立（平成 23 年 4 月公布、9 月施行）。

2. 法律の概要

- 我が国において公開される海外の美術品等のうち、要件に該当するものとして文部科学大臣が指定したものに対しては、強制執行、仮差押え及び仮処分を禁止。
※美術品のほか、「化石」や「希少な岩石、鉱物、植物及び動物の標本」も対象となる。
- 指定に当たっては外務大臣への協議が必要。
- 指定した美術品等に係る情報については、官報において公示。

3. 制度を利用しようとする場合

- 本制度に申請しようとする場合は、「海外の美術品等」の制度の適合状況、申請書の記載方法、申請書の提出時期等について、美術品等を借用開始する 3 か月前まで（指定が必要な美術品等の数が 10 点を超える場合は 6 か月前まで）に、文化庁に相談が必要（詳細は以下の文化庁 HP を参照）。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/bunkazai/kaigaibijutsu_sokushin/

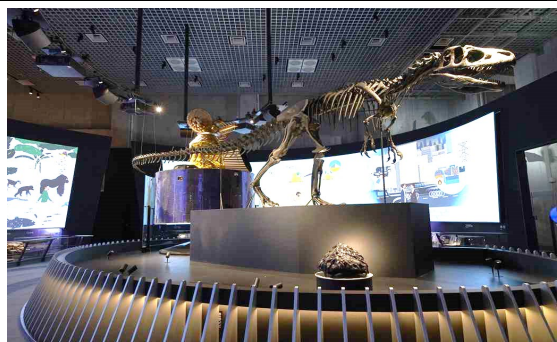
4. 制度の運用状況

- 令和 8 年 7 月 1 日現在、161 件の海外美術品等の指定を実施。

独立行政法人国立科学博物館

使命・役割
独立行政法人国立科学博物館は、博物館を設置して、自然史に関する科学その他の自然科学及びその応用に関する調査及び研究並びにこれらに関する資料の収集・保管（育成を含む）及び公衆への供覧等を行うことにより、自然科学及び社会教育の振興を図ることを目的とする。

中期目標
①自然史及び科学技術史の調査・研究
②ナショナルコレクションの構築・継承及び活用
③人々の科学リテラシーの向上を目指した展示・学習支援

各施設の概要						
施設	上野本館		筑波地区（筑波研究施設・筑波実験植物園）		附属自然教育園	
						
設置	明治10年（1877年） （教育博物館）		昭和51年（1976年）		昭和37年（1962年）	
建物延べ面積	33,612㎡		48,661㎡		1,953㎡	
	うち展示面積 11,355㎡		うち展示面積 3,406㎡		うち展示面積 264㎡	
敷地面積	13,223㎡		140,022㎡		192,382㎡	
所在地	東京都台東区上野公園7-20		茨城県つくば市天久保4-1-1		東京都港区白金台5-21-5	
役割・任務	国立科学博物館は、日本で最も歴史のある博物館の一つであり、自然史・科学技術史に関する国立の唯一の総合科学博物館である。良質で豊富な実物標本資料を中心に、フロアごとに展示テーマを設け、メッセージ性を重視することにより、常設展示のメインメッセージである「人類と自然の共存をめざして」を体系的に、わかりやすく伝えられるような展示構成をしている。		筑波研究施設は、自然史および科学技術史に関する中核的な研究機関として、動物、植物、岩石・鉱物、古生物、人類、科学技術史等を専門分野とする研究者を擁し、4つの研究部（動物・植物・生命史・理学）と3つの研究センター（産業技術史資料情報センター・標本資料センター・分子生物多様性研究資料センター）を中心に、様々な機関と連携して調査研究を展開している。筑波実験植物園では、日本の代表的な植生を再現し、世界の熱帯や乾燥地に生育する植物を栽培するなど、3000種を超える植物が展示されている。		自然教育園は、文化財保護法に基づき天然記念物及び史跡に指定されている。園内では暖温帯の代表的な植生である常緑広葉樹林、武蔵野の草地、谷の湿地などが保存されており、多くの動植物を観察し生態系のしくみを学ぶことができる。	
展示資料数 (R7.3.31時点)	25,600		79,981（非公開を含めた植栽数）		－	
来館者数 (R6年度)	2,411,460人		101,724人		121,813人	
職員数 (R7.4.1時点)	63人		68人		7人	

登録標本数 (R7.3.31時点)	5,164,938		
役員	館長 篠田 謙一	理事 栗原 祐司	監事（非常勤） 高山 昌茂、池田 千絵
職員数	令和7年度（R7.4.1時点）		
	138人		

↓補正の交付金18をプラス											
国からの財政支出	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
運営費交付金	2,765	2,768	2,797	2,729	2,698	2,732	2,925	2,546	2,840	2,855	2,859
施設整備費補助金	0	0	0	0	0	133	0	0	0	0	0
自己収入（展示事業等収入）	416	420	424	469	589	710	393	543	710	710	822
※補正での施設整備費											
（交付決定の年度および交付決定額）	0	0	80	378	50	1,366	976	238	829	583	

令和7年度独立行政法人国立科学博物館 展覧会予定一覧

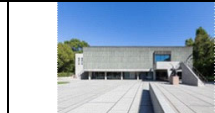
令和7年										令和8年																				
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月								
上野本館	3/15				6/15		7/12						10/13		11/1						2/23									
	特別展「古代DNA—日本人のきた道—」					特別展「氷河期展 ～人類が見た4万年前の世界～」					特別展「大絶滅展—生命史のビッグファイブ」																			
	3/25				6/15		7/1		7/21		7/29		9/28		10/10		11/9		11/26		3/2		3/24							
上野本館	企画展「地球を測る」										企画展「植物×匠」(仮称)					企画展「学習マンガのひみつ」(仮称)					企画展「ワニ」(仮称)									
						企画展「第41回植物画コンクール入選作品展」																				企画展「かこさとし展 科学絵本の世界」				
筑波実験植物園	4/19		4/27				7/5		7/13				10/18		10/26						2/7		2/23							
	コレクション特別公開「さくらそう品種展」					企画展「シジュウカラの社会-鳥の眼で見る植物園-」					企画展「きのこ展」										「第42回植物画コンクール入選作品展」									
						## 6/15					9/20 9/28					12/7 12/14					3/20 3/29									
筑波実験植物園						協力団体展示「つくば夏の洋蘭展」					コレクション特別公開「育てる宝石・コノフィツム」					企画展「つくば蘭展」					企画展「琉球の植物」									
	4/26 6/8																													
	コレクション特別公開「クレマチス園公開」																													
附属自然教育園	3/1		4/13												11/29		1/12													
	企画展「自然教育園の四季と生きものたち」										企画展「自然教育園の四季と生きものたち」																			
	4/19						7/6				9/20		11/24																	
附属自然教育園	企画展「自然教育園のオオタカ～都会で生きる空のハンター～」										企画展「＜フィールド×絵本写真展＞ようこそ！葉っぱ科学館」																			
附属自然教育園																					企画展「科博NEWS展示 ウグイスの谷渡り鳴きの新仮説— 谷渡り鳴きは警報ではなくメスへのアピー—」									
											8/2 9/15										3/7									
											企画展「第41回植物画コンクール入選作品展-受賞作品展-」										企画展「自然教育園の四季と生きものたち」									

独立行政法人 国立美術館

使命・役割
独立行政法人国立美術館は、美術館を設置して、美術に関する作品その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的とする。

中期目標
①美術振興の中心的拠点として、多様な鑑賞機会の提供、美術創造活動の活性化の推進など、現代の美術を取り巻く状況の変化に対応した多彩な活動を展開し、我が国の美術振興に寄与
②我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・活用・継承
③我が国におけるナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

各館の概要

施設	東京国立近代美術館		京都国立近代美術館	国立映画アーカイブ	国立西洋美術館	国立国際美術館	国立新美術館
	本館	国立工芸館					
							
設置	昭和27年6月6日	分館設置 昭和52年11月15日 移転開館 令和2年10月25日	分館設置 昭和38年3月1日 独立 昭和42年6月1日	分館設置 昭和45年5月27日 独立 平成30年4月1日	昭和34年4月	昭和52年5月20日	平成18年7月1日
建物 延べ面積	19,050.6㎡ うち展示面積 4,459.0㎡	3,072.22㎡ うち展示面積 703.76㎡	9,761㎡ うち展示面積 2,604㎡	16,479㎡ うち展示面積 1,365㎡	17,369㎡ うち展示面積 4,420㎡	13,487㎡ うち展示面積 3,811㎡	49,709㎡ うち展示面積 14,000㎡
所在地	東京都千代田区 北の丸公園3-1	石川県金沢市 出羽町3-2	京都府京都市左京区 岡崎円勝寺町	東京都中央区 京橋3-7-6	東京都台東区 上野公園7-7	大阪府大阪市北区 中之島4-2-55	東京都港区 六本木7-22
役割 ・ 任務	近・現代の美術、工芸に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。		特に京都・西日本を重点に近・現代の美術、工芸に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	映画文化振興の中核的機関として、映画に関する収集・保存・活用・上映・調査研究活動等を実施。	仏政府から日本国政府に寄贈返還された松方コレクションを中心に西洋美術に関する作品及び資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするため、主に1945年以降の現代美術に関する作品その他の資料の収集・保管・展示・調査研究活動等を実施。	国立のアートセンターとして、全国的活動を行う美術団体の展覧会等への会場の提供及び新しい美術動向や現代作家を紹介する自主企画展の開催、国際発信等を実施。
収蔵作品 ※1	14,290件	4,599件	15,690件	110,197件	6,848件	8,396件	
入館者数 ※2	490,372人	59,871人	180,994人	97,553人	1,465,756人	140,986人	379,415人
館長	小松 弥生	山崎 秀保	福永 治	棚木 章	田中 正之	島 敦彦	菅谷 富夫
職員数 ※3	28人	12人	18人	22人	25人	18人	25人

単位：百万円

国立アートリサーチセンター（法人本部に設置）		
 国立アートリサーチセンター National Center for Art Research	役割 ・ 任務	国内外の美術館、研究機関をはじめ関係者と連携・協力し、アート振興の基盤整備及び国際発信と持続的な発展に寄与するため、国立美術館のナショナルセンターとしての機能の強化、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援などに取り組み、我が国の美術館活動全体の充実に寄与する。
設置		令和5年3月28日
所在地		東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア2階
センター長		田中 正之
職員数 ※3		12人

役員	理事長	理事	監事（非常勤）
	田中 正之	(常勤)石崎 宏明 (非常勤)渡部 葉子	田中 淳、茶田 佳世子
法人本部職員数 ※3・4	28人	職員数※3	計188人

国からの財政支出等	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
運営費交付金	7,552	8,511	8,423	7,739	8,050	8,143	8,461
施設整備費補助金	1,381	100	400	400	100	100	300
文化資源活用事業費補助金(国際観光旅客税財源)	-	-	-	-	-	-	250
施設整備費補助金(国際観光旅客税財源)	-	-	-	-	-	-	340
自己収入(展示事業等収入)	1,581	1,102	1,303	1,504	1,679	1,679	1,786

予算額	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	11,164	10,776	10,776	10,293	10,479	10,572	11,537

※平成29年度から、予算額には上記3項目に加え寄附金収入を含む。

※補正予算による施設整備費（百万円）							
(交付決定の年度及び交付決定額)		0	1,202	676	384	507	402

※1 収蔵作品は令和8年3月31日現在の数(寄託作品を含む。)
※2 入館者数は令和7年度実績(主催事業(所蔵作品展、企画展、国立映画アーカイブ上映会・展覧会)の入館者数)
※3 職員数は令和8年4月1日現在の常勤職員の人数。
※4 法人本部職員数は、国立アートリサーチセンターを本務とする職員を含まない。

2026年度 企画展年間スケジュール

多彩な展覧会をいつでもお楽しみいただけます。この他、各館の所蔵作品による展覧会も開催しています(国立新美術館を除く)。

	2026年										2027年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
東京国立近代美術館 本館	3/17	5/10	6/16			9/13		10/23		1/11		3/19 5/9	
	下村観山展		杉本博司 絶滅写真					竹久夢二展 時代を創る表現者				速水御舟展(仮称)	
	3/3	5/10				9/13	9/29		1/11	2/9	5/9		
	新収蔵&特別公開 メダルド・ロッシ 《Ecce Puer(この少年を見よ)》 生誕120年 長谷川三郎と国立近代美術館										パリの日本人芸術家たち(仮称) 日韓現代美術の交差(仮称)		
国立工芸館	3/20		6/14	7/3		9/23	10/9		1/11		2/26	6/6	
	ルネ・ラリック展ーガレ、ドームから続く華麗なるフランスの装飾美術ー			こどもとおとなの自由研究 もようわくわく2			デザイン・クロニクル展 なにが生まれて、なにが変わった?			金継ぎーKINTSUGIー展			
国立西洋美術館	3/28		6/14										
	チュルリョーニス展 内なる星図					9/23		10/24			2/21		
	3/28		6/14										
	北斎 富嶽三十六景 井内コレクションより			版画家レンブラント 挑戦、継承、インパクト			テート美術館 ターナー展ー崇高の絵画、現代美術との対話						
	10/25	5/10						10/20	1/11				
	フルーニング美術館・国立西洋美術館所蔵 フランドル聖人伝板絵ー100年越しの“再会”												
国立映画アーカイブ 小ホール	4/7	5/10				9/18	9/26	10/13 10/25 11/3 11/15	12/1 12/27	2/2	3/7	3/9 3/21	
	発掘された映画たち2026		6/2 6/28				第48回びあフィルムフェスティバル2026	10/27 11/1		1/12 1/24		NFAJコレクション2027 春(仮称)	
			映画監督 是枝裕和					TIFF/NFAJ クラシックス(仮称)		サンフランシスコ無声映画祭 in Japan(仮称)			
				8/4 9/6	9/18 9/26	10/18					3/21		
				返還映画コレクション (4)-文化・ニュース・漫画映画篇(仮称)			第48回びあフィルムフェスティバル2026	京橋映画小劇場(仮称)		京橋映画小劇場(仮称)			
				7/26 8/11			12/13	1/5		3/21			
国立新美術館	2/11	5/11	6/10			9/21		10/28		2/8			
	テート美術館ーYBA & BEYOND 世界を変えた90s英国アート		ピカソ meets ポール・スミス 遊び心の冒険へ			少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展							
	4/15		7/6			9/9		12/13					
	生誕100年 森英恵 ヴァイタル・タイプ					ルーヴル美術館展 ルネサンス							
京都国立近代美術館	3/28		6/21		7/18	10/4	10/24		1/17				
	モダン都市生活と竹久夢二ー川西英コレクション		フオンタネージー イタリアの光・心の風景			ジュエリーは、誰を夢みる							
	3/28		6/21		7/18	10/4	10/24		1/17				
	第1回コレクション展 / 特別展示「加守田章二と IM MEN」			第2回コレクション展			第3回コレクション展						
国立国際美術館	3/14		6/14		7/19		11/3	12/1		3/14			
	中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置		笹本晃 ラボラトリー			コトバの重なる場所							
	3/14		6/14		7/19		11/3	12/1		3/22			
	コレクション3		コレクション1			コレクション2							

※情報は2026年4月現在。展覧会の詳細は決まり次第随時HPなどでお知らせいたします。HPで最新情報をご確認の上、ご来館くださいますようお願いいたします。

アクセス

東京国立近代美術館 本館

国立工芸館

国立西洋美術館

国立新美術館

国立映画アーカイブ

京都国立近代美術館

国立国際美術館

36

独立行政法人 国立文化財機構

使命・役割
独立行政法人国立文化財機構は、博物館を設置して有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、貴重な国民的財産である文化財の保存及び活用を図ることを目的とする。

中期目標
1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
・有形文化財を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、文化財に関する調査及び研究等を行うことにより、文化財の保存及び活用を図る。特に、文化財の次世代への保存継承に関する国民意識の涵養を図る。
2. 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究・協力事業等の実施
・文化財に関する専門的、技術的事項に関する唯一の国立研究機関として、基礎的・探究的な調査研究を継続的に行い、災害に対する多様な文化財の防災・救援のための連携・協力体制を構築し、専門的な知見から支援を行うとともに、地域の専門的人材の育成を図る。
・有形・無形の文化遺産に係る国際協働・協力に貢献する専門的機関として、国際条約等に基づく活動を積極的に推進する。

各施設の概要

施設	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	皇居三の丸尚蔵館	施設	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	アジア太平洋無形文化遺産研究センター
									
設置	明治5年（1872年） （文部省博物館）	明治22年（1889年） ※明治30年（1897年）開館 （帝国京都博物館）	明治22年（1889年） ※明治28年（1895年）開館 （帝国奈良博物館）	平成17年4月1日 （開館：同10月16日）	平成5年度（1993年）開館 令和5年10月1日 （宮内庁より移管）	設置	昭和5年6月28日	昭和27年4月1日	平成23年10月1日
建物延べ面積	78,471㎡	30,872㎡	19,133㎡	30,675㎡	7,656㎡（Ⅰ期棟）	建物延べ面積	10,516㎡	11,387㎡	244.67㎡
	うち展示面積 18,567㎡	うち展示面積 5,657㎡	うち展示面積 4,079㎡	うち展示面積 5,444㎡	うち展示面積 690㎡（Ⅰ期棟）				
所在地	東京都台東区上野公園13-9	京都府京都市東山区茶屋町527	奈良県奈良市登大路町50	福岡県太宰府市石坂4-7-2	東京都千代田区千代田1-8	所在地	東京都台東区上野公園13-43	奈良県奈良市二条町2-9-1	大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁
役割・任務	我が国の総合的な博物館として、日本を中心として広く東洋諸地域にわたる文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	仏教美術を中心とした文化財について、収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財について収集・保管・展示、調査研究、教育普及事業等を行う。 なお、事業の実施に当たっては、福岡県等と連携協力を行う。	皇室から受け継いだ文化財を中心として、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行う。	主な事業	1 我が国及び諸外国の美術及び我が国の無形文化財の調査・研究 2 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発 3 科学技術の活用等による文化財の保存科学・修復技術に関する調査・研究 4 全国の博物館・美術館からの要請に応じた専門的指導・助言・研修 5 文化財の保存・修復に関する国際協力	1 平城宮、藤原宮、飛鳥地域の発掘調査及び出土品・遺構の調査・研究 2 遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究 3 古都所在社寺所蔵の歴史資料等の文化財の調査・研究 4 全国各地の発掘調査等に対する指導・助言及び発掘調査専門職員等に対する研修 5 飛鳥資料館・平城宮跡資料館等における調査・研究の成果の公表 6 発掘調査・遺跡の整備に関する国際協力	アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に係る調査・研究
所蔵品（国宝） （重要文化財）	122,017件 （90件） （652件）	9,143件 （29件） （202件）	1,979件 （13件） （114件）	19,227件 （4件） （51件）	117件※1 （0件） （0件）		一般公開施設		飛鳥資料館（28,204人） 平城宮跡資料館（40,303人） 藤原宮跡資料館（6,013人）
来館者数	2,225,567人	458,426人	800,197人	663,622人	50,912人				
館長	藤原 誠	松本 伸之	井上 洋一	富田 淳	島谷 弘幸（理事長）	所長	齊藤 孝正	本中 眞	町田 大輔
職員数	121人	45人	36人	29人	34人	職員	43人	81人	5人

※所蔵品の件数および来館者数数は令和8年3月31日現在（令和7年度実績） ※1：国からの長期貸与品件数は6,175件（内、国宝10件、重要文化財13件）

※各館の職員数は、役員以外の館長を含む。

役員	理事長 島谷 弘幸	理事 中野 理美、奥 健夫（非常勤）、福野 明子（非常勤）	監事（非常勤） 稲垣 正人、久留島 典子
	令和8年度 453人		

※職員数は令和8年4月1日現在の現員数である。
なお、各施設職員数の計に本部事務局・文化財活用センター・文化財防災センターの職員数59人を足したものである。

単位：百万円									
国からの財政支出	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
運営費交付金	8,808	8,593	8,633	9,052	8,918	9,577	9,578	9,579	9,920
施設整備費補助金	405	994	198	0	0	0	0	0	0
自己収入（展示事業等収入）	1,677	1,931	2,090	1,032	1,329	1,626	2,103	2,201	2,392

予算額	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	10,890	11,518	10,921	10,084	10,247	11,203	11,681	11,780	12,312

※補正での施設整備費

（交付決定の年度および交付決定額）	473	409	123	1,176	277	477	530	301	
-------------------	-----	-----	-----	-------	-----	-----	-----	-----	--

令和8年度独立行政法人国立文化財機構 特別展覧会等開催予定一覧

令和8年5月1日現在

	8年									9年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京国立博物館	2/10～4/5 特別企画 日韓国交正常化60周年記念 新韓国美術の玉手箱—国立中央博物館の所蔵品をむかえて (東京国立博物館、中尊寺、NHK、NHKプロモーション)			7/14～9/6 弘法大師生誕1250年記念 特別展「空海と真言の名宝」 (東京国立博物館、真言宗各派総大本山会、読売新聞社、NHK、NHKプロモーション)			9/29～12/20 特別展 内山晋コレクション受贈記念「歌川広重 江戸のベストアングル」 (東京国立博物館)			1/19～3/14 特別展「源氏物語 王朝のかがやき」 (東京国立博物館、日本経済新聞社、NHK、NHKプロモーション)		
京都国立博物館	4/14～6/7 前田育徳会創立百周年記念 特別展「百万石！加賀前田家」 (東京国立博物館、公益財団法人前田育徳会、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社)			4/27～7/20 特別企画「アイルランド チェスター・ビーティー・コレクション 絵巻と絵本のたからばこ」 (東京国立博物館、チェスター・ビーティー)			10/14～12/6 開創700年記念特別展「大徳寺 本朝無双禅苑」 (大本山 大徳寺、NHK、NHKプロモーション、日本経済新聞社)					
奈良国立博物館	4/18～6/14 特別展「北野天神」 (京都国立博物館、北野天満宮、読売新聞社)			7/18～9/13 ボストン美術館共同企画 特別展「南都仏画—よみがえる奈良天平の美—」 (奈良国立博物館、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿)			10/6～11/29 特別展「源氏物語 王朝のかがやき」 (京都国立博物館、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿)					
九州国立博物館	4/10～6/7 特別展「神仏の山 吉野・大峯—蔵王権現に捧げた祈りと美—」 (奈良国立博物館、総本山金峯山寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿)			7/10～9/13 特別展「神仏の山 吉野・大峯—蔵王権現に捧げた祈りと美—」 (奈良国立博物館、総本山金峯山寺、読売新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿)			10月～11月 特別展 第78回正倉院展(予定)					
皇居三の丸尚蔵館	4/21～6/14 特別展「若冲、琳派、京の美術 —きらめきの細見コレクション—」 (九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞イベントサービス)			7/18～9/27 特別展「氷河期展～人類が見た4万年前の世界～」 (九州国立博物館・福岡県、RKB毎日放送、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、tysテレビ山口、OBS大分放送、NBC長崎放送、RKK熊本放送)			10/31～1/11 特別展「卑弥呼の鏡 —三角縁神獣鏡がヤマト王権をつくった—」 (九州国立博物館、福岡県)					
平城宮跡資料館	新施設の建設工事に伴い一時休館期間 (全面開館は令和8年秋を予定)			令和8年秋 皇居三の丸尚蔵館グランドオープン記念特別展								
飛鳥資料館	9/19～11/29 秋期企画展「平城遷都(仮)」 (於:平城宮いざない館)			2/27～4/11 春期企画展「UnEarth2027」								
飛鳥資料館	4/14～6/21 ミニ展示 明日香村「古都」指定60周年記念 「古都の自意識—近世飛鳥の農民と遺跡—」			7/17～9/13 企画展「第16回写真コンテスト作品展「遺(のこ)したい飛鳥」			10/9～12/13 特別展「未定(飛鳥の構成資産紹介)(仮)」					

公益財団法人日本博物館協会の主要活動について

1. 博物館の普及啓発に関する事業

(1) 月刊誌「博物館研究」の刊行

博物館の総合研究情報誌として、内外の動向を反映しつつ博物館の取り組むべき課題について、毎号特集テーマを設定して内容の充実を図るとともに、博物館関連の最新情報、地方の動向及びI COM（国際博物館会議）を中心とする博物館の国際動向や海外ニュース等、博物館に関わる読者にとって価値のある情報の提供に努める。

また、協会が創立100周年を迎えることも踏まえ、協会ホームページ等のメディアを活用して掲載情報の一部を紹介するなど、コンタクトポイントの多様化により購買層のさらなる拡大を図るべく、今後の編集方針や活用施策案等を継続的に検討し、月刊誌「博物館研究」の価値の向上に努める。

(2) 全国博物館大会の開催

第74回全国博物館大会は、岩手県博物館等連絡協議会、岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会の協力のもと、11月18日（水）～20日（金）の3日間、岩手県民会館（盛岡市）他において開催する。本大会では、3日間にわたり博物館に関する諸問題について研究協議を行い、今後設定する大会のメインテーマに基づき、基調講演、全国博物館フォーラム、シンポジウム、分科会、施設見学等を行う。

(3) 全国博物館長会議の開催

博物館の運営の中核である館長を対象に、全国博物館長会議を、文化庁との共催の下、7月10日（金）の開催に向けて準備を進める。文化庁の博物館担当官等による令和8年度事業の行政説明及び協会の令和8年度事業計画等の説明を行うとともに、博物館の運営及び館長のリーダーシップ等について事例報告やシンポジウム等を行う。また、第6回日本博物館協会賞受賞館のプレゼンテーションも行う予定である。

2. 博物館に対する支援に関する事業

(1) 博物館利用支援機器の提供

子育て世代、高齢者、障がい者等の博物館の利用環境を向上し、これらの人々の文化的、知的要求に応えるとともに、生き甲斐と豊かな生活を支援するため、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を得て、車いすとベビーカーの無償提供を継続する。

提供予定台数 車いす

65台

ベビーカー 幌なし 65台

(一般財団法人日本宝くじ協会へ申請中)

(2) 災害支援事業

令和8年度は、令和6年に発生した能登半島地震で被災した博物館や文化財に対する救援活動への支援を中心に、文化庁及び国立文化財機構の文化財防災センター等との連携の下に災害支援事業を継続する。

また、I COMの「博物館防災国際委員会」等との連携の下に国際的な博物館の防災体制の整備に努め、戦争が長期化しているウクライナの博物館・文化財の復旧のための寄付金の提供等の支援を継続する。

加えて、令和元年の台風19号の被災に係る川崎市市民ミュージアムや長野市立博物館への支援を必要に応じて継続するとともに、今後発生が危惧される大規模災害への対応を含め、募金・寄付の募集、救援事業への参加者募集を継続する。

3. 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業

(1) 博物館制度のあり方に関する調査研究

文化審議会文化施設部会及び博物館ワーキング・グループへの参画を中心に、新たな「博物館の設置及び運営に関する望ましい基準」の策定等の博物館法の改正後に残された諸課題についての審議の促進に努め、その情報を広く会員、博物館関係者に周知する。

また、重要な課題やテーマについて、独自に検討・議論の場を設置し、現場の運営課題の共有と解決策の検討に結びつく調査研究を継続的に実施する。

(2) 新たな博物館登録制度のあり方等に関する調査研究

改正博物館法における新登録審査制度の運用のあり方、制度の周知・理解の促進について、文化庁の事業に参画するとともに、協会独自で調査研究を実施し、現場の意見や課題を収集・整理し、情報共有を行うこと等を通じて、博物館全体の振興に資する制度としての充実に努める。

(3) 日本博物館協会創立100周年記念事業・その他

日本博物館協会創立100周年に向けて、これまでの協会の活動を振り返りつつ、今後の博物館振興のために協会の果たすべき役割と組織のあり方等について検討を進め、協会の中長期的ビジョンの骨子をまとめる。

以下の5本の柱を中心に、国や外部機関等との連携を含め、必要に応じて個別委員会を設置し、機動的に準備作業を進め、来季の理事会に諮る。

① 日本博物館協会の経営基盤の見直し・強化

- ・文化庁委託事業で得た知見等を踏まえ、公益財団法人としての経営・財務基盤の強化に向けた具体的方針を検討しつつ、文化庁委託事業の活用を含め実証的導入を進め、中長期ビジョンに反映させる。
- ・協会の経営・財務基盤の強化に向けた具体的取組みとして、クラウド

ファンディングの実施に着手する。

② 博物館振興のための事業展開の見直し・強化

- ・令和6年度の文化庁事業の一環として開設した、会員館の寄付情報や会員・友の会制度等の情報を一元的に発信するポータルサイト「博物館への寄付ポータル」の維持・活用を含め、各博物館への支援の充実策を検討し、適切な施策を実施する。
- ・国、館種団体、関連学会等との連携強化、政策実現に向けた提言・進言先の検討・開拓を行う。

③ 社会に対する博物館の価値・役割の発信

- ・これまでの業界内部への働きかけを中心とした活動とともに、広く社会に対する博物館の価値・役割の周知・PRを新たな事業の柱とし、その実施に向けた方策を検討する。

④ 日本博物館協会創立100周年記念事業の基本計画

令和10年度に実施する日本博物館協会創立100周年記念事業の基本計画を検討・策定し、必要な準備を進める。

- ・創立100周年記念誌の編集・刊行委員会を中心に、企画・編集・調査等を実施し、刊行に向けた準備を進める。
- ・毎年の開催イベント（全国博物館大会関連、国際シンポジウム、展覧会等）については、創立100周年を加味した企画を検討する（令和8年度・令和9年度・令和10年度）。
- ・令和10年度に実施する記念行事（創立100周年記念式典、顕彰等）の実施に向けた具体的検討・準備を進める。

⑤ 日本博物館協会の全構成員の「対話と連携」促進

協会の中期ビジョンの構築や事業の改善への取り組みは、協会の経営陣をはじめ、協会の職員全員の理解の上で進めていくことが重要となる。そのため、理事及び評議員の意見交換や事業への参画を促進するための懇談の機会を設け、協会の発展的組織改革を行う基盤を整備する。

併せて、事務局内においても職員が今後の協会のあり方について協議する機会を設け、協会運営を支えるために、相互の対話・連携の促進を図る。

（4）博物館総合調査

令和6年度に実施した調査結果について、総合調査に係る委員会を中心に集計・分析を進め、最新の博物館の運営状況に関するデータを報告書としてまとめ、広く公開し、各博物館の運営改善をはじめ博物館政策立案の基礎資料として活用資す。また、協会ホームページを活用し、より多くのステークホルダーに対して重要な調査結果を分かりやすく発信する等の取り組みを行う。

（5）博物館に関する情報の提供

- ① 「全国博物館園職員録」を刊行し、博物館活動に必要な情報を提供する。

- ② 全国の博物館の所在地、交通案内、収蔵品、常設展示等について記載した「全国博物館総覧」の編集を行い、博物館活動の連携を推進するための情報を提供する。
- ③ 協会のウェブサイトでは、全国の博物館・美術館の基本情報を検索できる会員館紹介をはじめ、最新の動向や休館・イベント情報の提供、調査研究や美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施、全国博物館大会や全国博物館長会議による課題共有、博物館園活動調査の実施、関連団体へのリンク掲載等を通じて、博物館に関する多面的な情報提供を行う。

4. 博物館関係者の資質の向上に関する事業

(1) 研究協議会の開催

博物館の学芸員をはじめ職員の資質の向上を図るため、博物館制度をはじめ、博物館が直面する諸課題を研究協議し議論を深めるために、令和8年度中に2～3テーマを設定し開催する。なお、開催形式については、近年の参加者ニーズを勘案し、ハイブリッド及びオンライン開催等も含めて柔軟に対応する。

(2) 顕彰の実施

博物館に永年勤続し功労のあった博物館職員等に博物館功労賞を授与するとともに、前年度「博物館研究」に掲載された優れた論文に棚橋賞を、実践報告等に関する論文に博物館活動奨励賞を授与し、その功績を顕彰する。

また、令和2年に新たに創設した「日本博物館協会賞」の第7回目の受賞館を表彰するとともに、日本の代表館として the Best in Heritage (TBIH) に推薦する。

(3) 美術品梱包輸送技能取得士認定事業の実施

平成24年度の試行実施から始まった美術品梱包輸送技能取得士認定試験は、令和6年度までに1級39名、2級253名、3級546名の合格者を輩出している。

令和8年度の試験実施時期は、1級は8月初旬、2級及び3級は令和9年2月を予定している。

大手業者と中小業者で合格率、合格者数の格差が生じているため、中小業者の梱包輸送技術の向上を目的として、実技ビデオのホームページ上での公開を継続する。なお、実技のさらなる理解を促進する目的から、一部の实技ビデオについては更新を検討する。

また、認定制度の普及を図るため、各博物館及び関係機関に、美術品の梱包輸送に当たっては、本認定者を有する美術品取扱い業者を優先して採用するよう、引き続き働きかけを行う。

5. 博物館の国際交流に関する事業

(1) 国際発信・国際交流の促進・充実

国内博物館の振興に不可欠な国際化の促進に向け、I C O Mを中心とする国際的な博物館活動への積極的な参加を促し、国際的に活動できる日本人人材の育成を支援するため、国際発信・国際交流を促進する取り組みを引き続き強化する。

- ・ I C O M日本委員会の経営基盤の強化に向けて、理事への立候補制導入後の理事会体制の整備、財務の課題の解決等に取り組む。
- ・ 国内会員の I C O M活動への参画促進、検討中の倫理規程改訂等への積極的なコミット等を通じて日本のプレゼンス向上に努める。
- ・ 国内会員の会員数維持とさらなる拡大に向けて、I C O M関連情報等の迅速な提供に努める。
- ・ 国内博物館の I C O M会員に対する優遇施設拡大に努める。
- ・ 日本の博物館に関する情報の海外発信の充実に努める。
- ・ 博物館防災国際委員会（DRMC）との連携をはじめ、国際的な博物館の防災体制の整備に努め、必要に応じて支援を行う。
- ・ I C O Mの国際委員会の年次総会・研究大会等の日本での開催を支援し、博物館の国際化促進に向けた取り組みを促進する。

（２）「国際博物館の日」事業の実施

博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールすることを目的に I C O Mが世界規模で行う「国際博物館の日」事業を国内でも開催する。令和 8 年（2026 年）の国際博物館の日のテーマ“Museums Uniting a Divided World”（「分断された世界をつなぐ博物館」（仮訳））に沿って、5 月 18 日の「国際博物館の日」を中心に、全国の各博物館において、入館料の減免、記念品の作成・配付、特別展や講演会の開催等の記念行事の展開を促進する。また、本事業の広報のために P R 用ポスターを作成し、国内の各博物館及び関係機関に広く配布することにより、博物館の存在と活動の広がりをアピールする。

また、I C O M日本委員会等との共催で、記念シンポジウムを 5 月 24 日（日）に国立科学博物館で開催する。

6. 新型コロナウイルス感染拡大の博物館への影響に関する対応（取りまとめ）

コロナ禍によって博物館運営が大きな影響を受けた令和 2 年から令和 5 年の 4 年間の博物館の状況を、一昨年度実施した博物館総合調査の結果を取りまとめ、博物館現場の感染予防対策のあり方等、運営の参考になるよう、引き続き、相談への対応や助言を行える体制を確保する。

7. その他、この法人の目的を達成するために必要な取り組み

- （１）各地区単位の博物館の会議に共催者として職員の派遣及び情報提供等の支援を行う。
- （２）協会ホームページを情報発信のプラットフォームとして、協会の事業や会員館の活動をはじめ、様々な情報を掲載することで、より動的な情

報メディアとして積極的に活用し、様々なステークホルダーによる閲覧を促進し、協会の活動の理解を向上させる。

(3) 創立100周年を迎えるに当たり、事業の充実を通じた協会のさらなる発展に向けた協会の経営基盤強化を目的として、

① 文化庁委託事業を通じて調査研究や実証を行った基盤強化推進事業を総括し、その後の自律的実装を検討する。

② 基本財産等の特定資産を国債等の無リスク資産で運用するための検討を行う。

(4) 希望会員館園を構成員として、施設賠償責任保険（賠償責任保険制度）及びレジャー・サービス施設費用保険（見舞金制度）の団体加入の周知と加入の促進に努め、入館者に対する安心・安全の確保を図る。

(5) 本事業計画の確実な達成に向けて協会事務局の組織強化を図る。

① 持続的で安定した事務局運営を確保するため、業務体制の見直しや業務負荷の平準化、情報共有の促進、相談しやすい環境整備等を進めるとともに、多様な働き方や健康状態に配慮した職場環境を整備し、職員が心身の健康を保ちながら安心して継続勤務できる体制を構築することで、組織の持続性を高める。

② 事務局職員の外部研修への参加等による能力向上を促し、協会の人材の育成に努める。

③ 事業の見直しや事業の遂行の方法の見直し等による業務の効率化により、生産性の向上を通じてオフィスコストの削減等を図る。

第73回全国博物館大会決議

令和7年11月20日
第73回全国博物館大会

第73回全国博物館大会は、「持続可能な世界と博物館の発展 ～未来・社会・ウェルビーイングに貢献する博物館～」を全体テーマとして、公益財団法人日本博物館協会の主催及び地方独立行政法人大阪市博物館機構の共催の下、文化庁、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会の後援を得て、令和7(2025)年11月19日から21日までの3日間にわたり大阪府大阪市において開催された。

今大会は、本年4月から10月まで開催された大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を踏まえ、今後、持続可能な社会のあり方や、人々のウェルビーイングに博物館がどのように貢献することができるのか、改正博物館法のもとのネットワークや新しい技術の活用、持続可能な博物館運営のあり方等について、全国から約570名が参加し活発な議論が行われた。

世界的に博物館の社会的役割が大きく変化・多様化するなかで、我が国においても、令和5年4月に施行された改正博物館法の下で、博物館は、社会教育はもとより地域の文化振興を担う中核施設として機能することが期待されている。こうした状況において博物館は、歴史文化・自然科学等多岐にわたる文化遺産の保存継承・調査研究・活用という基本機能の充実を図りつつ、あらゆる人々が健全で且つ文化的生活を送ることができる未来社会の創出に、大きく寄与できる社会基盤であることを確認した。

一方、博物館が社会基盤の役割を果たすためには、博物館を取り巻く多くの課題の解決が不可欠であり、博物館とその設置者は、これまでに増してそれぞれの施設の目的を再確認し、必要な財源の確保や人材の拡充・育成、資料の保管・活用体制の整備、地域課題への対応等、喫緊の課題解決に一層の努力をする必要があることを共有した。加えて、国や自治体、博物館の所管・関連部署、関係諸機関等が連携し、博物館法制度に基づく公的支援の拡充が不可欠であり、博物館の存在意義を社会に広く訴えることが必要であることを確認した。

ここに、第73回全国博物館大会の名において、本大会の議論を踏まえ、博物館がより良い未来社会の創造に寄与することを願い、下記のとおり決議する。

*日本博物館協会は、本決議が本大会で採択された後、速やかに文部科学省、文化庁、各地方自治体の博物館関係所管及び博物館関係者等に公表・共有し、記載内容の実現に向けて努力する。

1（持続可能な博物館運営の推進） 博物館は、近年、社会的な課題を解決するための機関として、多様性や包摂性、アクセシビリティ、さらにはSDGsやウェルビーイングに貢献することが求められていることを認識し、持続可能な博物館運営を推進する。

日本博物館協会は、ICOM（国際博物館会議）の活動等国际的な動向に関する情報発信に努め、国をはじめ公私立博物館の設置者等に、これらの社会的要請に応えることの重要性を強く訴え、とともに必要な支援を働きかける。

2（博物館法制度の拡充と博物館の基盤強化） 博物館は、博物館法の趣旨を踏まえ、設置目的や運営方針に則り、施設の特性を活かした基本機能の充実に努め、地域の多様な主体との対話と連携の下に、すべての利用者・社会からの期待に応え得る博物館活動を、持続的・発展的に展開するために、必要な財源確保を含め様々な努力を行う。

日本博物館協会は、博物館法制度・政策等に係る情報を発信し、各博物館への支援に努めるとともに、必要な専門人材の確保・育成等、博物館の経営や財政基盤の強化に不可欠な、法制度に基づく公的支援の拡充を、国をはじめ公私立博物館の設置者等に強く訴える。

また、昨年度実施した博物館総合調査の結果分析を進め、運営現場の課題を明確にし、登録制度の拡充をはじめ、学芸員制度の充実や資料の保管・活用体制の整備等について、関係者との協議を進め、文化庁等に対し、博物館に関する継続的且つ発展的な審議を求める。

3（デジタル化による情報発信機能の充実と多様な連携の促進） 博物館は、博物館資料のデジタル化とアーカイブ化の充実が、社会に開かれた博物館としての機能を高めるために重要であることを認識し、各施設の状況に応じた取組を通して情報発信力の強化に努める。併せて関連機関等との情報共有に努め、多様な連携やネットワーク化の促進を図る。

日本博物館協会は、博物館のDX化の促進の基礎となるネットワークの構築に努め、新たな技術の活用等について、全国の博物館と情報共有・協議を進め、博物館資料のデジタル化を支援するための補助事業の拡充及び地方財政措置等を国等に強く働きかける。

4（国際化と国際人材の育成促進） 博物館は、その活動充実に、国際組織や海外博物館との連携が重要であることを認識し、ICOM等の国際機関と積極的に連携し、各博物館の状況に応じた国際化と人材育成の推進に努める。

日本博物館協会は、各博物館の国際化への取組を継続的に進展させるために不可欠な、学芸員等を国際会議への参加及び海外での研修等に派遣するための支援の継続と拡充を、国をはじめ博物館の設置者、関係機関・団体等に対し強く要請する。また、ICOMで検討が進められている博物館倫理規程の見直し状況を踏まえつつ、日本博物館協会とICOM日本委員会は、日本の「博物館の原則」、「博物館関係者の行動規範」の改定に向けた準備を進める。

5（防災・減災・防犯体制の充実） 博物館は、多発する地震や豪雨・火災等の大規模災害、また、盗難やサイバー・テロ等による博物館・文化財の被害を防ぎ、被災した博物館や文化財の復旧・復興を支援するために相互の連携を強化する。

日本博物館協会は、国立文化財機構文化財防災センターとの連携を核として、全国的な博物館の防災体制の整備・強化に努める。また、博物館での人為的な危険行為等へのリスクが高まりつつある国際的状況を踏まえ、UNESCOやICOM、ICOMOS等の国際機関と連携し、国際的な博物館や文化財の防災組織である「ブルーシールド（Blue Shield）」の国内委員会設置に向けて検討を進める。

2026 年「国際博物館の日」記念事業の概要

日本博物館協会及びICOM日本委員会が主催し、5月18日の「国際博物館の日」を中心として、国内の博物館や美術館等に参加を呼びかけ、全国各地で様々な記念事業が企画されました。概要は以下のとおりです。

1. ポスターの作成

協賛企業9社の協力を得て、ポスターを作成し、日本博物館協会会員館園並びにICOM 団体会員及びICOM会員優待施設に配付しました。

また、文化庁「博物館総合サイト」上でも周知、参加呼びかけが行われました。

2. 各館園における記念事業

ICOM（国際博物館会議）が提唱する「国際博物館の日」の事業として、博物館が社会に果たす役割について広く市民にアピールし、博物館の普及を図るため、5月18日

「国際博物館の日」を中心に、今年の共通テーマである「急激に変化するコミュニティにおける博物館」に基づき、全国の188館園で無料入館や記念行事、記念品贈呈など約266件の記念行事が企画されました。詳細は別表をご参照ください。

3. 記念シンポジウム

5月24日は、「分断された世界をつなぐ博物館」をテーマとして、現代社会におけるミュージアムの状況を概観した基調講演をはじめ、各地の具体的な実践事例を紹介し、参加者全体での議論いたしました。記念シンポジウムには約100名が参加して実施しました。また、現在、YouTube による配信も行っています。



2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

2026.5.15現在

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

北海道	登別市郷土資料館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sobetsu.hokkaido.jp/docs/shirushi-ak/
	ひがし大雪自然館(土士堤町 ひがし大雪博物館資料館)	記念品贈呈	5月4日(月)～ 5月5日(火)	来館者先着100名 缶バッジを贈呈	https://www.hi-shirashan.com/
	土士堤町鉄道資料館	記念品贈呈	5月4日(月)～ 5月5日(火)	来館者先着30名 缶バッジを贈呈	https://www.sarisai-hokkaido.jp/e/acc_00000023
	浦幌町立博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	
		記念講座	5月17日(日) 14:00～16:00	国際博物館の日記念講座「戦争による『負の遺産』展示と博物館」 講師 渡清福子氏(立命館大学歴史都市防災研究所) 負の遺産を子どもにも伝える展示の意義と方法を、アメリカと台湾の具体例を比較しながら検討した研究の事例を紹介し、子どもたちに歴史の重みと責任を理解させ、未来に向けた早知と差別の視点を考えさせるために、いま博物館ができることを考える。	https://museum-museum.jp/
	北海道立旭川美術館	30分でわかる！学芸員の見どころ解説	5月16日(土) 14:00～14:30	当館学芸員が、「舞台光輝の世界へ歩き2」展出品の解説や作成の裏話などお話しします。 予約不要、参加無料。	
		美術講座「はじめてのピカソーその生涯と芸術～」	5月17日(日) 14:00～15:30	当館館長が、パブロ・ピカソの生涯と芸術についてわかりやすく、多少しだけマニアックにお話しします。 予約不要、参加無料。	https://artmuseum.museum.hokkaido.jp/ak/
		記念品贈呈	5月22日(金)	来館者先着20名 マグネットを贈呈	
	天塩川歴史資料館	無料公開	5月16日(土)～5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	
		記念品贈呈	5月13日(水)～ 6月17日(水)	シンボルマークデザイン案の応募者全員 ポストカード、缶バッジ、ボールペンなどを贈呈	
シンボルマーク公募		5月13日(水)～ 6月17日(水)	天塩川歴史資料館のロゴマークに使用するシンボルマークを公募する。対象は天塩町民や町内学生などが中心。	https://www.teshikawano.hokkaido.jp/teshikawano-private-museum/	
音声ガイド設置		5月16日(土)～ 常設	日本語・英語の音声ガイドの常設設置を開始する。併せて音声ガイドやゲームの体験用と館内で利用できるタブレット端末の貸し出しを開始する。		
北海道立網走芸術館	記念品贈呈	5月16日(土)・5月17日(日)	各日先着50名 ポストカードを贈呈	https://www.kobun-j-artm.jp/	
青森県	八戸市博物館	無料公開	5月16日(月)	八戸市博物館はリニューアル工事のため休館中 隣接する八戸市史跡戦城の広場と分館である八戸市南部歴史民俗資料館において、通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://hachinosha-city-museum.jp/
	青森県立郷土館	共催展	5月25日(月)～ 5月27日(水)	弘前市内で写真展を開催(歴史・民俗分野)	https://www.hokudai.ac.jp/
	海上自衛隊大湊地区館 北洋館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.msd.jp/ja/musd/governorate-hokkaido-jp.html
		記念品贈呈	開館日	来館者全員 海上自衛隊グッズを贈呈	https://www.town.itsayama.akomori.jp/tourism/kyouka/
	板柳町立郷土資料館	無料公開	—	常時無料で公開している	
岩手県	御所野縄文博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://goshonoya-jishi.com/index.html
		早朝！バードウォッチング	5月23日(土) 7:00～10:00	朝の御所野縄文公園を開放し、バードウォッチングを開催	
	一関市博物館	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.itsukushima.iwate.jp/museum/
花巻市博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.hanamaki.iwate.jp/hanamaki-museum/flower/1019837/1009881/index.html	

※本音が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

岩手県	岩手県立博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www2.pref.iwate.jp/~top010/
		森精バックヤードツアー	5月17日(日) 事前予約申込	収蔵庫など、来館者の立入を制限している区域を学芸職員が案内する。(文化史コース並びに自然史コース)	
山形県	米沢市上杉博物館	無料公開	5月18日(月)	特別展展示期間のため、常設展のみ無料で公開	https://www.shinkyo-musei.com/news/20200518/
	公益財団法人 齋藤茂吉記念館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.mokichi.or.jp/
福島県	相馬市歴史資料収蔵庫	無料公開	5月22日(金)～5月24日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.soma.fukushima.jp/digital/collection/p26106/public/index.html
	石川町立歴史民俗資料館 イン・クル	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.town.shikawa.fukushima.jp/section/04-06/
	郡山市歴史情報博物館	記念品贈呈	5月16日(土)～5月17日(日)	クイズラリーを実施し、全問正解した方にオリジナルクリアファイルを贈呈	https://www.city.koriyama.fukushima.jp/section/history-museum/
	旧伊達屋敷所	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.town.koriyama.fukushima.jp/section/kyodoko/1700.html
	船崎市立博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://www.city.kashiwa.fukushima.jp/c/museum/index.html
	小林吉登記念美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sakata.fukushima.jp/section/kobayashi/
	上越市立歴史博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sakata.fukushima.jp/section/museum/
	高田城三重櫓	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sakata.fukushima.jp/section/museum/okada-triple.html
	日本スキー発祥記念館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sakata.fukushima.jp/section/museum/ski.html
	牧野史民俗資料館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.sakata.fukushima.jp/section/mori-shi-musei.html
新潟県	魚沼市歴史資料館	記念品贈呈	5月2日(土)～5月18日(月)	来館者全員 魚沼市歴史資料館オリジナルステッカーを贈呈	https://www.city.yuzuma.lg.jp/section/yakushi/
		無料公開	—	常時無料で公開している	
	長岡市立科学博物館	イベント	4月25日(土)～5月31日(日)	春季企画展「火焔土器発見90周年記念キックオフイベント カエンドキョウぐる」 発見90周年を記念して、火焔土器の展開写真を貼りめぐらせ、その文様世界を体感してもらう企画展です。	https://www.museum.city.nagaoka.niigata.jp/
		博物館講座	5月21日(木)	「今日はとことん火焔土器－火焔土器をじっくり観望－ 火焔土器についてじっくり解説します(春季企画展のギョウリートークつき)」	
	新潟県立歴史博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://naga.or.jp/
	招待券プレゼント		～6月7日(日)	国際博物館の日記念・招待券プレゼント 施設で新潟県立歴史博物館の招待券(常設展・企画展とも、年度内有効)をプレゼント	
	新潟市歴史博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.nnm.jp/
	新潟市北区郷土博物館	無料公開	5月24日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.niigata.lg.jp/section/shiokawa-hakubutsukan/kyodoko/1700.html
富山県	富山県美術館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者先着50名 ポストカードを贈呈	https://tsp1-tyoyma.jp/

2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

2026.5.15現在

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

石川県	KAM能美市九谷焼美術館 〔五彩館〕	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常是有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.kamcity.museum.jp/
		九谷焼クイズラリー		九谷焼に関するクイズを出題し、全問正解でミュージアムグッズをプレゼント	
石川県	公益財団法人 食文化振興財団 鈴木大膳館	開館時間の延長	5月17日(日)	(夜間イベント開場時間) 18:00～19:30 (通常の開館時間 9:30～17:00)	https://www.kamcity-museum.jp/daijishi/
		黄昏スペースツアー「同族編」・ 夜間の思索体験プログラム(予約・定員制)	5月17日(日) 18:20～19:20	ライトアップ/ダウンされた館内の見所を鑑賞会学芸員が案内する夜間ツアー。鈴木大膳をめぐるエピソードの紹介とともに、「跡・思案」のひとつを提案します。あわせて、テーマにちなんだジェラートを楽しむ特別体験と、夜間撮影の時間を参加者に提供します。	
		記念品贈呈		黄昏スペースツアー 参加者 夜間イベント・ツアー資料を贈呈	
	金沢市立安江金箔工芸館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者先着50名 箔絵しおりを贈呈	https://www.kamcity-museum.jp/kyogaku/
長野県	水見市立博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.himiyama.lg.jp/action/museum/
	茅野市ハッポ総合博物館	こどもの日とくべイベント	5月2日(土) 9:00～12:00	科学工作やAR体験、プラネタリウム、おはなし会を楽しみましょう	https://www.city.shinano.lg.jp/shinano-happo-museum/
	飯田市美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、プラネタリウムを除くすべての展示を無料で公開	https://www.ita-museum.org/
		「田中芳男と国際博物館の日」		飯田出身の「日本の博物館の父」田中芳男にちなんだ見学会、特集展示などを実施予定	
岐阜県	安曇野高橋節郎記念美術館	国際博物館の日記念事業	5月16日(土)～5月24日(日)	「国際博物館の日記念 高橋節郎と安曇野」	https://anumuseum.com/facility/anumuseum/
		記念品贈呈	5月16日(土)～5月17日(日)	来館の希望者にポストカードを贈呈	
群馬県	富弘美術館	無料公開	5月18日(月)	2026年について富弘美術館は工事による休館中 臨時富弘美術館において、すべての展示を無料で公開	https://www.city.mishima.gunma.lg.jp/mishima/
栃木県	公益財団法人 山崎有朋記念館	記念品贈呈	5月18日(月)～5月24日(日)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.general-yamagata-foundation.or.jp/
	栃木市 おひら歴史民俗資料館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着30名 ポストカードを贈呈	https://www.tochigi-hakutsu.or.jp/visit/ohira-museum/
	栃木県立博物館	栃木県立博物館の日イベント(最博デー)	5月17日(日)	コンサート、学芸員とのお話講座、キッズツアー、クイズにチャレンジを開催	https://www.museum.pref.tochigi.lg.jp/
	大田原市なす風土館の丘湯津 上資料館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.ohitagawa.tochigi.jp/docs/201303272084
	大田原市郡山一伝承館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.ohitagawa.tochigi.jp/docs/201303272084
	塩田市立資料館 (塩田東土館ミュージアム)	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.city.shiobara.lg.jp/page/49500080.html
茨城県	公益財団法人 徳川ミュージアム	記念品贈呈	なくなり次第終了	賞品購入特典カード	https://www.tokuware.jp/
	土浦市立博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.tsuuba.lg.jp/tsuba-buraku-haku-museum/

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

埼玉県	鉄道博物館	国際博物館の日記念 館内のバックヤードをめぐるスペシャルガイドツアー	5月17日(日)	通常は入ることのできない収蔵庫や、ジオラマ室の裏側を学芸員のガイドと各エリアの担当者による解説でより深く博物館のことを知ることもできる体験をお届けします	https://www.railway-museum.jp/
	埼玉県立川口の博物館	森の宝石―安砂蔵―を観察しよう	5月24日(日) 13:30～15:30	安砂蔵の構本を実体顕微鏡で観察します	https://www.city.kawaguchi.lg.jp/
	狭山市立博物館	無料公開	5月15日(金)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.nagasaki.lg.jp/museum/
東京都	日本カメ博物館	新引入館	5月17日(日)	来館者全員 入館料一般300円のところ100円引きの200円で入館可	https://www.jcm-japanmuseum.jp/
		記念品贈呈		来館者先着5名 オリジナルジグソーパズルを贈呈	
	共立女子大学博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.kyotoku-u.ac.jp/museum/
	古賀政男音楽博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.kawasaka.or.jp/
	パナソニック汐留美術館	新引入館	5月18日(月)	来館者全員 500円で入館可	https://panasonic.co.jp/en/museum/
	古代オリエント博物館	新引入館	5月18日(月)	来館者全員 館蔵品展「タイムスリップ！古代オリエントの世界」入館料半額割引	https://aom-tokyo.com/
	台東区立一豊記念館	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.taitohq.jp.net/ichio/
	台東区立創倉邸型館	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.taitohq.jp.net/ashura/
	アドミュージアム東京	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.adm-tokyo.jp/
		記念品贈呈	5月16日(土)	来館者先着30名程度にポストカードを贈呈	
	国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://iccuibts.jp/en/campus-museum/index.html
		春冬特別展「ICU図書館所蔵 バンクス植物園 マデラ島・ブラジル・ジャマカの植物」	開館日は右記でご確認ください	4月14日(火)～7月3日(金)、毎週火曜日～金曜日(4月29日・5月5日・5月6日を除く)、および4月18日、5月10日、5月16日の13:00～17:00と、7月18日の10:00～16:00開館	
		オンライン公開講座「植物を「見る」 ―園地をめぐるアートサイエンス―	5月30日(土) 14:00～15:30	講師：寺田祐美氏(東京大学総合研究博物館インターメディアテック寄付研究部門特任准教授)	
		記念品贈呈	5月19日(火)～5月22日(金)	来館者全員 ポストカードを贈呈	
	杉野学園衣笠博物館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.costumemuseum.jp/
	東京ステーションギャラリー (公益財団法人 東日本鉄道文化財団)	記念品贈呈	5月16日(土)～5月17日(日)	来館者全員 ロゴ入り鉛筆を贈呈	https://www.stg.or.jp/gallery/index.html
		その他の記念事業	—	SNS(Instagramのストーリーズ)でイベント内容を公開	
	東京農工大学科学博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.tust-museum.org/
		「みんなで博物館を楽しもう！」	5月24日(日) 13:00～15:30(予定)	・機械機構の動態展示、・ガウスの仕組み実演解説、・カイコの生体展示、・カイコで学ぶ！遺伝のひみつ(※変更可能性あり)	
		企画展「シルクが切り開く未来展」 ギャラリーワーク	5月24日(日) 13:00～13:30	展示室をめぐるながら、最先端の研究やどこまでについて研究者が解説	
	物流博物館	記念品贈呈	5月17日(日)	高校生以上の入館者先着50名 テレホンカードを贈呈	https://www.muse.or.jp/

2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

2026.5.15現在

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

東京都	民営音楽博物館	無料公開	—	常時無料で開催している	
		企画展「日本のオーケストラのあゆみ展」	～ 6月29日(月)	2026年、日本初のプロオーケストラ「新交響楽団」(現・NHK交響楽団)の設立から100年を迎えます。本展では、西洋音楽が日本で受容されてから、現在に至るまでのプロオーケストラの歩みに先を当て、5つのテーマに分けてご紹介します。	https://museum.mim-ort.or.jp/
	一般財団法人 家具の博物館	無料公開	5月17日(日)～ 5月31日(日)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.bonshaku.or.jp/
		昭和人形紹介 「彫山異士郎 Meet the 本堂染 展」		彫山異士郎氏制作の晋唐使いのいでのる壺染作品と当館所蔵の家具とのコラボレーションを堪能していただきます。	
	世田谷美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で開催しているが、常設展示のみ無料で公開	https://www.setagayamuseum.or.jp/
	台東区立書道博物館	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.taitohsushun.net/shodou/syuu/
	たましん美術館	無料公開	5月19日(火)～ 5月21日(木)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.tamashinmuseum.org/
	一般財団法人 東武博物館	記念品贈呈	5月19日(火)	来館者全員 オリジナルノベルティを贈呈	https://www.tokyo.co.jp/museum/
	三井記念美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で開催しているが、外国人および大学・高校生のみ無料 ※パスポート(写し可)または学生証のご提示をお願いしております。	https://www.mitsui-museum.jp/
	武蔵野市立吉祥寺美術館	記念品贈呈	美術館にお問い合わせください	来館者先着10名 クリアファイルまたはメモ帳を贈呈	https://www.musashino.or.jp/museum/
	新島村博物館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.cjima.com/facility/community/hakuba-hakubutsukan/
	東京家政大学博物館	無料公開	—	常時無料で開催している	https://www.tokyo-gai.ac.jp/academic/museum/
		記念品贈呈	5月18日(月)～ 5月23日(土)	来館者先着5名 履歴会図録を贈呈	
	台東区立旧東京音楽学校奏楽堂	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.taitohsushun.net/saunakudou/
	日馬寄生虫館	無料公開	—	常時無料で開催している	https://www.kisshu.or.jp/
国立科学博物館	「上野の山でバクめぐり」(ツアー形式)	2026年「国際博物館の日」記念ミニ解説会	5月16日(土)～ 5月17日(日) 11:00～ 13:30	2026年「国際博物館の日」記念ミニ解説会(寄生虫・差別克服の歴史) 日本住虫協会とリッパ系フィリア座とに、寄生虫感染症患者への差別が知識の啓蒙より克服された歴史を振り返る。	https://www.kisshu.or.jp/
		無料公開	5月19日(火)	通常は有料で開催しているが、常設展示のみ無料で公開	
		5月17日(日) 9:00～ 12:00	5月16日(土) 14:00～ 15:30	国際博物館の日記念「上野の山でバクめぐり」(ツアー形式) 上野動物園の動物解説員、国立科学博物館の解説員、東京国立博物館の解説員とついに3つの施設をめぐる。 集合場所:上野動物園 東園 旧正門前 対象:内容は小学5・6年生、中学生、高校生の方を主な対象としています。どなたでも参加可能 定員:30名 ※事前申込制 参加費:無料 https://www.tokyo-zoo.net/uma/news/11110/index.html 研究者による「天文ニュース解説」を実施。 https://www.kahaku.go.jp/event/mid0004020.html	https://www.kahaku.go.jp/

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

千葉県	鴨川シーワールド	特別レクチャー「絶滅危惧種の保全活動」 マリンシアター(ペルギーパフォーマンスタワー)	5月16日(土)～ 5月18日(月) 13:00～	千葉県に生息する絶滅危惧種の保全活動を紹介し、参加費無料(入館料は別途必要)	https://www.kanagawa-seaworld.jp/
	白浜海洋美術館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	http://kabi.art.coop.or.jp/
	千葉県立現代産業科学館	科学館わくわく教室 「回転式アニメーションをつくろう」	5月10日(日) 9:30～ 15:30(全5回)	アニメーションの歴史に触れながら、フェイクスクリーンを作ります	https://www.chiba-museum.or.jp/SCIENCE/
	千葉県立歴史民俗博物館	パネル展①「江戸川の風景 その1」	4月21日(火)～ 6月28日(日)	江戸川の川面の風景や流域の文物などを写真で紹介しています。	https://www.chiba-museum.or.jp/SEKUYADO/
	木更津市郷土博物館 金のすず	無料公開	—	常時無料で開催している	https://www.city.kisarazu.jp/city/kyokko/kyokko.html http://kyokko.chiba-np.or.jp/kyokko/kyokko.html
	船橋市 瑞ノ台史跡公園博物館	無料公開	5月16日(土)～ 5月17日(日)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	
		記念品贈呈	5月16日(土)～ 5月17日(日)	来館者全員 過去の企画展図録等を贈呈	https://www.city.fuchibashi.jp/shizetsu/bunko/0001/0006/0001_0038786.html
		体験イベント 「縄文ツバ・触れてみよう縄文のくらし」	4月18日(土)～ 7月5日(日)	石皿や黒曜石を使用した縄文体験や館内を巡るクイズラリー等	
	芝山町立 芝山古墳・はにわ博物館	展示解説	5月16日(土)～ 5月17日(日) 各日10:00～ 12:00 13:00～ 15:00	常設展示の展示解説を当館ボランティアが行います。	
		無料公開	5月17日(日)	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.hanawa.or.jp/
	茂山市立博物館	無料公開	—	常時無料で開催している	https://www.city.mosabara.chiba.jp/190128/0-190128/
	日本大学理工学部 科学技術史料センター	無料公開	—	常時無料で開催している	https://www.museum.cai.ehon-u.ac.jp/
		記念品贈呈	5月11日(月)～ 5月30日(土)	授業での見学を随来館者先着50名 ログ入り定規を贈呈	
神奈川県	横浜歴史博物館	無料公開	5月23日(土)～ 5月24日(日) 9:00～ 17:00	通常は有料で開催しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.yokohama.jp/
		歴史未来フェス		横浜歴史博物館と、隣接する横浜地区文化センター「ポッシュホール」が共催し、地域で活動する方々とともに、さまざまなイベントを両館を舞台に実施します	
	公益社団法人 川崎・砂子の里資料館	記念品贈呈	4月29日(水)～ 5月31日(日)	「川崎浮世絵ギャラリー」寄贈文庫コレクション(川崎市川崎区駅前本町12-1川崎駅前タワー1階)にて記念品贈呈イベントを実施いたします 来館者全員 ステッカーを贈呈	https://www.kawasaki-izumozato-iridofree.com/
	横浜美術館	記念品贈呈	5月16日(月)	来館者先着100名 角型パレットを贈呈	https://yokohama-art-museum.jp/
	鎌倉市鎌倉清方記念美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着100名 ミュージアムグッズを贈呈	https://www.kamakura-art.or.jp/kabarak/
	藤野市立宮永彦彦記念美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着20名 ポストカードを贈呈	https://www.city.fujino.kanagawa.jp/kyoku-bunko-senta-bunko/kyoku-bunko/1/index.html
JICA横浜 海外移住資料館	無料公開	—	—	常時無料で開催している	https://www.jica.go.jp/demystify/jovm/index.html
	記念品贈呈	5月18日(月)～ 6月17日(水)		来館者全員 ポストカードを贈呈	

2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

2026.5.15現在

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

静岡県	三島市郷土資料館	無料公開	—	常時無料で公開している(別途市立公園楽園の入園料が必要)	https://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
		記念品贈呈	5月16日(土)～5月17日(日)	来館者先着50名 ポストカードを贈呈	
	ふじのくに地球環境史ミュージアム	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.fujino100.jp/
	上原美術館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://sugawara-museum.or.jp/
	島田市博物館	無料公開	5月5日(火)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.shimada.shizuoka.jp/shimadabu
		こどもの日の集い	5月5日(火) 9:00～17:00 (入館は16時30分まで)	学芸員による収蔵品展のギャラリートークや、ワークショップ、クイズラリーなどのイベントを開催します。	
岐阜県	とうしん美濃陶芸美術館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.shikin.co.jp/toume/shikin/museum/
		記念品贈呈	5月2日(土)～5月6日(水)	来館者全員 ポストカードを贈呈	
	岐阜県博物館	記念品贈呈	5月16日(土)～5月17日(水)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.gf-museum.jp/
愛知県	安城市歴史博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://www.aichibuika.jp/museum/
	公益財団法人横山美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.yokoyama-rt-museum.or.jp/
	豊橋市自然史博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.toyohaku.or.jp/sizen/
		企画展「新蔵資料／学芸員の研究成果紹介展」	～6月7日(日)	博物館に新たに収蔵された資料、学芸員の最新の研究成果を紹介します。	
三重県	鈴鹿市考古博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.suzuka.lg.jp/suzuka/
	三重県立美術館	「生誕100年 横濱山屋」担当学芸員によるスライドトーク	5月16日(土)14:00～	横濱山屋作品の見どころを紹介	https://www.sanka.jp/museum/
		トークイベントいっしょに見よう！ 富永の「トンボの絵」	5月17日(日)14:00～	三重県総合博物館・昆虫担当学芸員の大島康宏さんと増山雪雲の作品を鑑賞します	
		記念品贈呈	5月16日(土)	来館者先着100名 ポストカードを贈呈	
	伊勢市歴史博物館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://sugawara-city.mie.jp/
		記念品贈呈	博物館にお問い合わせください	高校生以下 オリジナル缶バッジ(※ガチャガチャで1回引く)を贈呈	
	四日市市立博物館	無料公開	—	常設展示のみ常時無料で公開している	https://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum/museum.html
		記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着50名 ポストカードを贈呈	
		バックヤードツアー	5月17日(日)14:00～16:00	普段は入れない博物館の裏側を紹介します。	
		ペーパークーDAY	5月17日(日)9:30～12:00	この時間は貸し切りおしゃべりしても大丈夫。幼児や赤ちゃんも観覧会や常設展、プラネタリウムをご覧いただけます。(観覧会・プラネタリウムは有料)	

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

和歌山県	道の駅みなべうめ館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.town.minabe.lg.jp/terms/kankou/01/05/2013091100181.html
	京都大学白浜水族館	両方いくとステッカーがもらえるイベント	4月29日(水)～5月6日(水)	対象期間中、京都大学白浜水族館と熊鷹記念館を同日に両方来館した方を対象に両館のオリジナルステッカーを贈呈	https://www.saito-kyo-to-u.ac.jp/shirahama_aquac/
		記念品贈呈	5月2日(土)～5月9日(水)	中学生以下の子供(未就学児含む)の入館者先着200名 トレカ風船ステッカーを贈呈	
滋賀県	広川町男山徳会館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.town.hirokawa.saitama.jp/shirayama-3/sirayama-3.html
	公益財団法人木下美術館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.kimoshita-museum.com/
	彦根城博物館	記念品贈呈	博物館にお問い合わせください	ポストカードを贈呈	https://hikone-castle-museum.jp/
奈良県	守山市はたの森資料館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.hata-boson.net/botanroom/
	生駒ふるさとミュージアム	無料公開	—	常時無料で公開している	https://bama-museum.jp/
		「生駒市指定文化財連綿展」	～5月31日(日)	令和8年1月に生駒市指定文化財に指定された文政13年(1830)のおかげ参り橋杓ならびに、慶応元年(1865)に発行された段札の印料の実物を展示。	
	十津川村歴史民俗資料館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.totsukawa.info/Saha/Sahara/3HstoryofMuseum.html
大阪府	柏原市立歴史資料館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.city.hirahara.lg.jp/docs/201408190205/
	国立民族学博物館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着100名 ポストカードを贈呈	https://www.mnhp.jp/
京都府	野村美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://nomura-museum.or.jp/
	京都国立近代美術館	記念品贈呈	5月19日(火)	来館者先着100名 ポストカードを贈呈	https://www.moryak.jp/
	立命館大学国際平和ミュージアム	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.ipsm.jp/
	古典の日記念京都市平安京創生館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://kyoto-kyougen.or.jp/kyo/index.html
	京の食文化ミュージアム・あじわい館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.kyo-ajiwai.jp/
	京都万葉館ミュージアム	無料公開	5月19日(火)～5月24日(日)	6日間のみ特設展示(館しの万葉館展のみ入館料無料)	https://k-wakaido.org/
	花園大学歴史博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.hanazono.ac.jp/about/museum.html
		記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ポストカードを贈呈 (おひとり様1セット、数に限りがあります)	
	京都市京ヤウ美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://kyotocity-kyoyaumuseum.jp/
	嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館	無料公開	未定	常時無料で公開している	https://www.kyoto-gaku.ac.jp/about/museum/
	鞍馬山霊峰殿(鞍馬山博物館)	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 鞍馬山校章を贈呈	https://www.kyoto-gaku.ac.jp/kyotoden.html

2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

2026.5.15現在

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

京都市	佛教大学宗教文化ミュージアム	無料公開	5月11日(月)～5月29日(金)	常時無料で公開している	https://www.bukkyo-u.ac.jp/museum/
	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	無料公開	5月16日(土)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.museum.kit.ac.jp/
	向日市文化資料館	無料公開	—	常時無料で公開している	
		ワークショップ「絵を手彩色で仕上げる」	5月3日(日)～5月4日(月) 10:00～18:00 (17:30までに入館)	朝権中のテーマ展「春告旧部 向日庵」家傳の仕事を生んだ家→一に展示している向日庵本ブレック詩集の美しい手彩色にならない、和紙に一度色で印刷した画に色鉛筆で彩色した作品を仕上げます。	https://www.city.mukohiyota.jp/a/a/shirayoshi/
		記念品贈呈		ワークショップ参加者 各日先着20名 ミニ色鉛筆(6色セット)を贈呈	
	琵琶湖疎水記念館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://shiwabosui-museum.city.hyogo.lg.jp/
		記念品贈呈	5月17日(日)	来館者先着30名 ポストカードを贈呈	
	京都府立堂本印象美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者全員 ステッカーを贈呈	https://nishi-dimeta.com/
	おもちゃ映画ミュージアム	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 特製お箸口を贈呈	https://toyfilm-museum.jp/
		記念品贈呈	5月18日(月) 10:30～17:00	朝権11周年記念品プレゼント 復元保存した板前のアニメーション「意振ドン動」を聞いた5勺お箸口を入館者1名に1個進呈	
	京都伝統工芸館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.dento-kyuzen.com/
	舞鶴引揚記念館	無料公開	5月5日(火)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	
		記念品贈呈	5月5日(火)	こどもの日イベントコーナー参加者 缶バッチ、鉛筆などを贈呈	https://m-hikage-museum.jp/
		SNS情報発信	5月18日(月)	舞鶴引揚記念館のSNS(フェイスブック、エックス)で「国際博物館の日」の意義や館の思いを発信	
	京都市総合博物館	企画展	3月11日(水)～6月14日(日)	企画展「文化財調査 模写からみる文化遺産」 考古資料や遺跡の記録・研究・普及のために製作された文化遺産の模写に焦点を当て、明治時代末から昭和10年代にかけて作られた人物埴輪や石舞台古墳の模写などを展示しています。	https://www.museum.kyoto-u.ac.jp/
		コレクション展	4月22日(水)～6月14日(日)	コレクション展「砥床・日本列島の金・銀・銅・鉄石」 日本には多種多様な砥床が存在し、砥石砥物の博物館とも称されます。当館には、日本の砥石全産産物を語る標本が、数多く収蔵されています。本展示では、特に金・銀・銅の砥石に着目し、砥床の形成過程や産地が私たちの手元に届くまでを紹介しています。	
京都府立山城郷土資料館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.kyoto-fu.ac.jp/~kyomuseum-m/entry/	
城陽市歴史民俗資料館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.yasui.hyogo.jp/natsunaru/3-3-2-0-0-0-0-0-0.html	
京都国立博物館	記念品贈呈	5月19日(火)	来館者先着250名 オリジナル缶バッチを贈呈	https://www.kyotohaku.ac.jp/	

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

兵庫県	あさご芸術の森美術館	記念品贈呈	5月10日(日)	来館者先着50名 ポストカードを贈呈	https://asagoart.com/
	相生市立歴史民俗資料館	無料公開	—	常時無料で公開している	http://www2.nst-ai-ohs.jp/eom/bushuag/museum/
	三草藩武家屋敷数田庵崎家	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.city.kato.lg.jp/sakubakugosensai/kyo-akushirotsuka/ohsagakubotsuka/bushuag/akubtsuka/visit04bushuag/153406118965.html
	加古川流域 滝野歴史民俗資料館	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.hakui-busho.jp/visit_information/kakotsuka-minobushu-akubtsuka/
	白鷺美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://www.hakui-busho-museum.org/
	神戸市立博物館	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で公開しているが、コレクション展示を無料で公開	https://www.kobebushomuseum.jp/
	武庫川女子大学附属 総合ミュージアム	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www.museum-wcu.ac.jp/museum/
		新制大学として抱いた夢と理想	～6月3日(水)	昭和14年創設の高等女学校が、新制大学となった昭和24年から昭和38年までに設置された大学の資料を中心に新制女子大学として抱いた夢と理想を展示 (土日祝日を除く。ただし、5月24日(日)は閉館)	
		記念品贈呈	5月18日(月)	来館者先着100名 オリジナルクアファイルを贈呈	
	小野市立好古館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.ono.hyogo.jp/visit03hokokukan/bushuag/
	姫路文学館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://www.bimeibushokukan.jp/
		常設展ガイド	5月17日(日)	ボランティアガイドによる常設展示ガイド・説明	
	三木美術館	記念品贈呈	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.m-bi-mi.jp/
	豊田市立美術館 —伊藤清水記念館—	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.toyota.lg.jp/1012810/1013947/akub-museum/
	うすくら能登留油資料館	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.busho@manu.co.jp/visit/museum/04busho/
	宍粟市立 城崎館・矢野寛治記念館	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.busho.jp/
		龍野城下町ミュージアム トライアングルギャラリー2026	4月25日(土)～6月7日(日)	えき・モノづくり作家「ドウノ ションの世界」 たつの市新宮町出身の堂野伸氏、鳥居園に漫画、イラストから立体まで、アートや文化に携わる25年の多彩な活動を紹介します。	
		記念講演会	5月16日(土) 14:00～15:30	記念講演会「一掃く、磨く、繋ぐ、境界なき創造」 鳥居園から立体まで、四半世紀の展覧・展示・アートを振り返ってきた25年の軌跡を紹介いたします。	
		ミニ企画展「八雲と露風」	4月11日(土)～6月7日(日)	ミニ企画展「八雲と露風」 2026年4月7日(日)オープンしたことを記念し、ミニ企画展として開催。小泉八雲家と三木露風の交流を示す書物の展示を行います。	
		記念講演会	5月9日(土) 14:00～15:30	記念講演会「小泉八雲と三木露風」 ミニ企画展開催イベントとして記念講演会を開催	
たつの市立宍粟港駅前・たつの市立宍粟史民俗資料館	無料公開	5月16日(土)～5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.tafu.hyogo.jp/visit03/1041/museum/1418.html	

2026.5.15現在

2026.5.14現在

2026.5.14現在

愛媛県	愛媛県美術館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://www.shima-art.jp/
	宇和島市立伊達博物館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.city.uzushima.ehime.jp/site/databaku-top/
	愛媛県歴史文化博物館	記念品贈呈	5月17日(日)	来館者全員 正保伊予国結句クリアファイルを贈呈	
		ようかいむら立原古づくり	5月17日(日) 10:00 ~ 12:00 13:00 ~ 15:00	立版古(たてばんこ)とは1つの絵をパーツに分けて立体的に組み立てる「おもちゃ絵」のこと。絵本作家たかいよしとくさんのかわいいキャラクターの立版古を作ろう！(今回は材料費無料)	https://www/~rabu-haku.jp/
香川県	香川県立ミュージアム	無料公開	5月19日(火)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.museum.pref.kagawa.lg.jp/
	大野城心のふるさと館	無料公開	5月17日(日)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://www.socis-socem.jp/
福岡県	福岡県立糸島高等学校 地土博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://kazushima-fukui.ac.jp/feature/museum/
	筑豊市秋月博物館	無料公開	5月16日(土)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	
		ギャラリーートーク	5月16日(土) 11:00	新倉市秋月博物館夏冬特展「新倉の奇々怪々」ギャラリーートーク 新倉市にまつわる妖怪伝説や不思議な話を紹介する特展「新倉の奇々怪々」について、学芸員が見どころを解説します。 展示予定：新倉市指定文化財「三奈木品園寺文書」「諸国化物図巻」	https://www.city.asakura.lg.jp/site/museum/
	太宰南市文化ふれあい館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://dagafu-fureai.or.jp/
佐賀県	中富記念くすり博物館	学芸員による展示ガイド	5月17日(日) ①10:15 ~ 10:45 ②13:15 ~ 13:45 ※アトキン薬局内約10分 各先着10名 対象：高校生以上 ※当日受付にて整理券配布	学芸員による展示ガイド・アルビン・アトキン薬局の中に入店してみよう〜 館内の展示を当館学芸員が分かりやすくお話しします。そして今回は特別に普段見ることができない、19世紀末イギリスのロンドン郊外にあった薬局(アルビン・アトキン薬局)の中に入ることができま！	https://mishigasaki-museum.or.jp/
		薬草クエスト	5月17日(日) 10:00 ~ 17:00 対象：小学生以上	当館併設の薬木薬園にて簡単なクイズを開催！正解した方にはちょっとした景品をプレゼント☆	
長崎県	長崎純心大学博物館	無料公開	—	常時無料で公開している	https://www/~longhin.ac.jp/en/research/museum/
		記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ポストカードを贈呈	
熊本県	菊北町歴史資料館	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開	https://~kukihata.jp/~kukihata-museum/index.html
	天草クリンタン館	天草四郎陣中旗の特別公開展示	5月1日(金) ~ 5月7日(木)	国指定重要文化財「天草四郎陣中旗」の実物を特別公開します	https://tenkasekuran-look.jp/g005/3646/P46/
	熊本県現代美術館	企画展	~ 6月21日(日)	企画展「秀島由己男展 デークファンタジー／ミステリアス 水保が生んだ異才」 水保出身の画家・画家家秀島由己男の出品点数264点からなる大規模展	
		記念品贈呈	5月18日(月)	企画展(有料)入場者先着100名 秀島由己男デザインのピアズリー「サロメ」のカード(非売品)を贈呈	https://www.sacrb.jp/

2026年「国際博物館の日」記念事業一覧

※予定が変更される場合がありますので、ご来館前に各館のホームページ等で実施情報をご確認ください。

2026.5.14現在

大分県	久留島武彦記念館	「第40回企画展 キム・ジヒ展」	4月28日(火)～5月31日(日)	「Sealed Smile」シリーズという作品群で知られる韓国のアーティストの展示会。韓国のアイドル少女時代やクロックスなどコラボレーションも行った。また、韓国美術教科書の表紙(2025年)にも作品が採用される。 4月28日(火)はキム・ジヒさんが来日してオープニングイベントをおこなう予定。	https://hucubimatabiko.com/
	大分県立博物館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ポストカードを贈呈	https://city-kagai.jp/
	竹田市歴史文化館	記念品贈呈	5月18日(月)	来館者全員 ステッカーまたは缶バッジ(Instagramでお知らせします)	https://www.city.kabusa.lg.jp/bunko-rekishi-kankou/syomokuken/index.html
沖縄県	ふるさと民俗学資料館(多良間村教育委員会)	無料公開	5月18日(月)	通常は有料で公開しているが、すべての展示を無料で公開(利島のみすべての展示を無料)	https://www.vill.karatsu.okinawa.jp/hirakabu-sakura-hirakabu/
	沖縄県立博物館・美術館	無料公開	5月18日(火)	通常は有料で公開しているが、常設展示のみ無料で公開	https://okimura.jp/
		展示解説会	5月12日(火) 11:00	令和7年度収蔵資料 沖縄県立博物館・美術館博物館企画展 収蔵品展 展示解説会 博物館各分野学芸員による博物館収蔵品展の展示解説会を実施します。	
		博物館文化講座シンポジウム	5月16日(土)	博物館文化講座シンポジウム「琉球・沖縄古来の源流を探るー木製軍用墓をめぐるー」15世紀以前の琉球・沖縄で登場した風葬墓の一形態である、木製軍用墓にスポットライトをあてて、各地の事例について報告・検討し、今後の古墳研究についても展望します。	
		博物館バックヤードツアー	5月23日(土)	普段は公開していない博物館の裏側を学芸員がご案内します。	

第74回全国博物館大会の開催について

会期： 令和8年11月18日（水）～20日（金）

会場： 岩手県民会館（盛岡市）主会場

テーマ： 「地域の未来と博物館～東日本大震災発生から15年を経て～」

主催： 公益財団法人日本博物館協会

共催： 岩手県博物館等連絡協議会（予定）

後援： 岩手県、岩手県教育委員会、盛岡市、盛岡市教育委員会（いずれも予定）

日程（予定）：

11月18日（水）

13:00～14:00 開会式

表彰式（日本博物館協会賞、棚橋賞、博物館活動奨励賞他）

14:10～14:50 基調講演

15:00～16:30 全国博物館フォーラム

16:40～17:40 出展ブースプレゼンテーション

18:30～ 情報交換会

注：博物館功労者顕彰式は、1号顕彰については11月18日（水）午前に実施する。

11月19日（木）

9:30～12:00 分科会

14:00～16:00 シンポジウム

16:00～16:30 全体会議

16:30～ 閉会式

11月20日（金）

終日 施設見学・エクスカーション

団体名		ICOM日本委員会
代表者職名・氏名		委員長 福野 明子
所在地		〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-52 黒田記念館別館3階 公益財団法人日本博物館協会 内
電話番号		03-5832-9108
ホームページアドレス		http://www.j-muse.or.jp/icom/ja/
連絡窓口	氏名	半田 昌之
	役職名	事務局長
	電話番号	03-5832-9108
	E-mail	icom@j-muse.or.jp

○団体概要

ICOM（International Council of Museums；国際博物館会議）は、1947年に創設された国際的な非政府機関である。世界 139 か国（地域を含む）から参加があり、このうちの 120 の国と地域では National Committees（国内委員会）が組織されている。また、様々な専門分野ごとに 34 の International Committee（国際委員会）が設置されている(2026年5月時点)。

ICOM 日本委員会は、ICOM 規約に従い、その目的達成とともに、国内における会員の諸活動の向上に資することを目的として、1951年に設立された。ICOM 本部との連絡や本部事業への参画、国際的な博物館情報の発信、関連する他の国際機構への協力などの活動を行っている。令和8年3月末の会員数は、個人会員 765 名、団体会員 62 団体である。

○令和8年度事業について（研修、調査研究、行事、普及啓発等）

国際博物館の日

ICOM が定める「国際博物館の日」である 5 月 18 日を中心に、日本博物館協会とともに国内の博物館に対し広く周知を行い、各館で無料公開や関連イベントの開催などの記念事業の実施を要請する。また、5 月 24 日には国立科学博物館（東京）で記念シンポジウムを開催し、後日 YouTube による録画配信を行う。

各 ICOM 国際委員会、その他関連会議への参加の促進

各国際委員会の年次総会や研究大会に日本から積極的に参加する会員等を支援するため、文化庁の在外派遣関連の補助金等に関する情報等を共有し周知等に協力する。

ICOM 博物館定義ハンドブックの日本語版の作成

2022 年のプラハ大会で改正された ICOM の博物館定義に関するハンドブックの発行を受け、ICOM 日本委員会として正式な日本語版作成に向けて翻訳チームを立ち上げ、公開に向けて準備を進めている。

公式ウェブサイトと Facebook 等による情報発信

ICOM 全体の情報共有をはじめ、国内の活動紹介や会員からの寄稿の掲載等を日英 2 か国語で発信するほか、会員優遇施設も公開するなど、積極的な情報発信を継続する。

団体名		公益財団法人日本博物館協会
代表者職名・氏名		会長 山梨 絵美子
所在地		〒110-0007 東京都台東区上野公園 12-52 黒田記念館別館3階
電話番号		03-5832-9108
ホームページアドレス		http://www.j-muse.or.jp/
連絡窓口	氏名	但馬 敏郎
	役職名	総務部長
	電話番号	03-5832-9108
	E-mail	webmaster@j-muse.or.jp
○団体概要 昭和3年、昭和天皇のご即位を記念して、学会・政界・財界からの代表22名によって、博物館事業促進会として設立。その後、昭和6年、日本博物館協会と名称変更、昭和15年文部省の許可を得て社団法人となり、さらに昭和61年、財団法人に改組、平成25年4月、公益財団法人に移行して現在に至る。 博物館の振興に関する諸事業の実施を通じて、博物館の健全な発達を図り、もって社会教育の進展に資するとともに、我が国の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的として活動している。		
○令和8年度事業について（普及啓発、支援、調査研究、資質向上、国際交流、その他） 博物館の普及啓発に関する事業 全国博物館大会の開催、「博物館研究」の刊行、全国博物館長会議の開催等 博物館に対する支援に関する事業 博物館利用支援機器の支給、災害支援事業の実施等 博物館に関する調査研究及び情報の収集・提供に関する事業 博物館総合調査の実施、課題設定による調査研究、博物館に関する情報提供、新登録制度推進事業の受託等 博物館関係者の資質向上に関する事業 研究協議会・シンポジウムの開催、顕彰事業、美術品梱包輸送技能取得士認定試験の実施等 博物館の国際交流に関する事業 国際博物館会議（ICOM）事務局としての国際交流、「国際博物館の日」の事業実施、国際動向の発信等 その他の当協会の目的を達成するために必要な事業 各地区単位の博物館会議に職員派遣・情報提供、他の館種組織・関係機関との連携等		

団体名		公益社団法人日本動物園水族館協会	
代表者職名・氏名		会 長 村田 浩一	
所在地		〒110-8567 東京都台東区台東4丁目 23-10 ヴェラハイツ御徒町 402	
電話番号		03-3837-0211	
ホームページアドレス		http://www.jaza.jp/	
連絡窓口	氏名	永井 清	
	役職名	事務局長	
	電話番号	03-3837-0211	
	E-mail	nagai@jaza.jp	
○団体概要 国内の主要 91 動物園と 49 水族館(令和7年3月末現在)の園館長を会員とする組織で、動物園水族館の振興及び文化の発展・科学技術の振興・自然環境の保全に貢献し、人と自然が共生する社会の実現に寄与することを目的としている。日本全体を視野に個々の動物園水族館では対応出来ない事業を行っている。希少種の血統登録と繁殖を推進する生息域外保全活動を国内外の園館と連携しながら行うほか、飼育・教育スタッフのレベルアップと野生動物のメッセージを伝える教育普及活動を重視して事業を行っている。			
○令和8年度事業について（調査研究、教育普及、種保存・支援） 第1. 調査研究・連絡 (1) 宿題調査(テーマ調査)、助成事業、動物園水族館雑誌、年報などの発行 (2) 各種研究会研修会の開催(動物園、水族館ごとに全国規模の開催、講習会) (3) 安全対策、災害対策、感染症対策調査・連絡など危機管理に対応したネットワーク 第2. 教育活動・普及啓発等 (1) 参加型教育研修会(ワークショップ)の開催 (2) 飼育技師資格認定試験の実施、上級飼育技師資格認定試験の実施 (3) 動物愛護に関する標語コンクール等 第3. 種の保存に関する事業 (1) 環境省と締結した「生物多様性保全の推進に関する基本協定書」に基づく事業 (2) 種保存会議、個体群管理研修などの開催 (3) 希少動物繁殖計画、配偶子バンクなど (4) 環境省、経済産業省からの受託事業(保護増殖、CITES 保護動物飼育など)			

団体名		公益社団法人日本植物園協会
代表者職名・氏名		会長 西川 綾子（水戸市植物公園 園長）
所在地		〒114-0014 東京都北区田端1丁目15番11号ティーハイムアサカ201
電話番号		03-5685-1431
ホームページアドレス		https://jabg.or.jp/
連絡窓口	氏名	皆川 有美
	役職名	事務局長
	電話番号	03-5685-1431
	E-mail	jimu@jabg.or.jp

○団体概要

全国的な植物園ネットワークを通じて、植物園や植物に関する文化の発展と科学技術の振興、自然環境の保全に貢献する事業を実施し、人類と自然が共生する豊かで持続的な社会の実現に寄与することを目的として活動している。昭和22年創設の任意団体日本植物園協会を礎に発足、昭和41年に社団法人、平成25年に公益社団法人に移行。平成28年より秋篠宮殿下が総裁に就任。日本の主な植物園と植物園・植物に関する事業を行う団体や法人118（令和8年5月）が加盟している。

○令和8年度事業について（研修、調査研究、行事、普及啓発等）

1. 調査研究、学術文化振興に関する事業

○第61回大会総会、研究発表会（5/26-28 米子市/とっとり花回廊） ○日本植物園協会誌61号発行
 ○海外事情調査（韓国） ○植物研究会／技術者講習会（北里大学薬用植物園）
 ○分野別会議（金沢大学・咲くやこの花館・六甲高山植物園・北海道大学）

2. 生物多様性・植物保全等に関する事業

○植物多様性保全拠点園ネットワーク事業（種子等採取、調査、地域ごとの連絡会議等） ○種苗交換
 ○「2030 生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）」や「30by30 アライアンス」への参画
 ○オガサワラグワ保全共同事業 ○植物情報システム（データベース）運用 ○外来種対策
 ○種子保存等に関するオンラインフォーラム ○ナショナルコレクション事業（認定、情報交換会等）
 ○ワシントン条約に基づく寄託管理業務（経済産業省） ○希少野生植物生息域外保全委託業務（環境省）

3. 教育・普及啓発に関する事業

○植物園シンポジウム「日本の植物園遺産 温室と植物園（11月 神代植物公園/オンライン配信）」
 ○教育普及ワークショップ ○植物園オンラインツアー〈テーマごとに植物園の動画を公開〉
 ○薬草ガイドブック制作・頒布 ○協会表彰（植物園功労賞、木村賞、坂崎奨励賞、保全栽培技術賞）
 ○「植物園の日」広報〈当協会ではH19より5月4日みどりの日を「植物園の日」としている〉
 ○普及啓発資料の提供（外来種対策広報データ、ビジュアル植物図鑑データ、ワークシート等）

団 体 名		一般社団法人全国美術館会議
代表者職名・氏名		東京ステーションギャラリー 館長 富田 章
所 在 地		〒102-0082 東京都千代田区一番町6-3-103
電 話 番 号		03-6272-8555
ホームページアドレス		https://www.zenbi.jp
連絡窓口	氏名	小林豊子
	役職名	事務局 総務幹事
	電話番号	03-6272-8555
	E-mail	info@zenbi.jp
○団体概要 美術館は、美術作品やそれに関わる資料・情報を集め、保存し、研究し、公開しながら、未来の世代に伝えていくという使命をもっています。また、コレクションの展示や、特別展、教育普及活動をはじめとするさまざまな営みを通じて、地域社会と連携し、市民と交流しながら文化創造の拠点となる役割も担っています。 全国美術館会議は、このような美術館の使命の実現を支え、その活動を社会的にしっかり根付かせるため、総会、総会記念フォーラム、講演会、学芸員研修会、研究部会等を毎年、開催し、その成果を会員館や広く美術関係者、また、一般の方々と共有しようと考えています。 日本の美術館がともに考え、ともに行動することをめざして、1952(昭和27)年に設立された本会は、令和2年4月1日付で一般社団法人となり、令和8年6月4日現在で、正会員(会員館)424館(国立14館、公立263館、私立147館)、個人会員54名、賛助会員65社で組織されています。		
○令和8年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） 1 研修 ・学芸員研修会(企画:研究部会持ち回り企画) 2 調査研究 ・研究部会(会合:各研究部会年2回程度) 会員美術館の学芸部門職員の中で、同じ業務を担当する者・同じ分野に関心を払う者同士が集まり、問題意識を共有しながら、共同研究、情報交換、研修会の企画実施等を行います。 企画委員会のもと6研究部会で構成され、所属館での日常業務の合間をぬい、積極的な活動が展開されています。全国美術館会議が、日本の美術館が集まる唯一、最大の連合組織であるために果たすべき社会への責任は、現在、こうした研究部会の日々の活動に基盤をおいていると考えています。 ①保存研究部会 ②教育普及研究部会 ③情報・資料研究部会 ④小規模館研究部会 ⑤美術館運営研究部会 ⑥地域美術研究部会 3 行事 ・理事会(第1回:令和8年4月23日開催、第2回:令和8年6月4日、第3回:令和9年1月下旬開催予定) ・総会(令和8年6月4日、5日開催(開催地:長野県長野市)) 4 普及啓発等 ・川崎市市民ミュージアム収蔵品レスキュー活動、東日本大震災復興支援・救援活動(災害対策委員会) ・機関誌発行(広報委員会)		

団体名		美術館連絡協議会
代表者職名・氏名		会長 水沢 勉
所在地		〒100-8055 東京都千代田区大手町 1-7-1 (読売新聞東京本社事業局内)
電話番号		03-3216-8664
ホームページアドレス		http://birenkyo.jp/
連絡窓口	氏名	川村康則
	役職名	事務局長
	電話番号	03-3216-8664 (美連協代表電話)
	E-mail	jaam@yomiuri.com
○団体概要 全国 47 都道府県の公立美術館約 150 館が加盟。 加盟館による共同企画展、巡回展の開催、美術館活動の助成などを実施。1982 年 12 月創立。		
○令和 8 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ▽ 展覧会の共同企画、巡回展開催等		

団体名		全国科学博物館協議会
代表者職名・氏名		理事長 真鍋 真
所在地		〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20 国立科学博物館内
電話番号		03-5814-9171
ホームページアドレス		https://jcsn.jp/
連絡窓口	氏名	登島 志穂
	役職名	広報・連携課係長(連携担当)
	電話番号	03-5814-9171
	E-mail	info@jcsn.jp
○団体概要 自然史及び理工系の科学博物館(総合博物館を含む)、科学館、動物園、水族館、植物園、プラネタリウム等が相互の連絡協調を密にし、博物館事業の振興に寄与することを目的として、昭和 46 年(1971 年)に発足。令和8年 5 月現在で、全国 213 の博物館、科学館等が正会員として加盟、また博物館等の展示・施設・機器に関わる企業等 19 社が維持会員として加盟している。		
○令和 8 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） (1)研修事業 ①学芸員専門研修アドバンスト・コース：国立科学博物館との共催により、博物館等の中堅学芸員等専門職員 10 名程度を対象として、国立科学博物館理学研究部による研修を令和8年 11 月上旬頃に実施予定。 ②オンライン学芸員専門研修の実施：国立科学博物館との共催により、博物館等で自然科学系部門を担当する学芸員及び職員等 30 名程度を対象として令和9年1～3月頃に実施予定。 ③海外科学系博物館視察研修：全科協加盟館園職員を対象に、令和9年1月に実施予定。 視察先はタイの科学系博物館等を予定している。 ④海外先進施設調査：全科協加盟館園職員3名を派遣予定。(各10日間程度) (2)連携促進事業 ①研究発表大会：令和9年2月に東日本大震災・原子力災害伝承館(福島県双葉郡双葉町)で開催予定。 ②巡回展の実施協力：国立科学博物館製作の巡回展「キモかわすごい！海の骨なしどうぶつの世界」をはじめ計 25 件の巡回展の募集に協力。 ③事業に対する後援など：加盟館園や関係機関が実施する事業で全科協の設置目的に適合し適切と認められる事業に対し後援等を行う。 (3)広報普及事業 機関誌「全科協ニュース」の発行、ホームページの運営など。		

団体名		全国科学館連携協議会
代表者職名・氏名		会長 浅川 智恵子
所在地		〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-6 日本科学未来館内
電話番号		03-3570-9151(日本科学未来館)
ホームページアドレス		https://www.renkeikyo.jp/
連絡窓口	氏名	小穴 亜由美
	役職名	事務局（日本科学未来館 プラットフォーム運営室）
	電話番号	03-3570-9151(日本科学未来館)
	E-mail	renkeikyo@jst.go.jp
○団体概要 全国科学館連携協議会（連携協）は、地域における科学技術普及の拠点である科学館等の連携促進を図り、科学館事業の振興に寄与することを目的として平成5年に設立された。全国183の科学館等が加盟（令和7年度終了時点）。正会員、協力会員、協賛会員で構成されている。年会費は10,000円。		
○令和8年度事業について <展示物の貸出> 加盟館や研究機関等と連携し、様々な展示物の加盟館への貸出やデータ提供を実施。（令和7年度は26種類の展示の貸出等を実施）。 <ブロック活動の推進> 全国8ブロックを構成し、ブロックごとに協力して相互に補完・啓発を行い、地域に根ざした活動を実施。 [ブロック構成] 北海道ブロック、東北ブロック、北信越ブロック、関東ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、中四国ブロック、九州ブロック <科学館職員研修> 国内科学館研修（オンライン含）、海外視察研修の実施。 先進的な取り組みの調査や加盟館の職員同士のコミュニケーションを促進。 <人材交流> 館の垣根を越えた人材交流を実施し、各加盟館がもつノウハウやスキルを学び合う機会を創出。 <新規貸出展示物制作への助成> 貸出展示の更なる活性化を目指し、加盟館等による展示物制作を助成。 <協賛物品等の提供> 企業からの協賛を得て加盟館にイベント素材の提供等を実施。		

団体名		日本プラネタリウム協議会
代表者職名・氏名		理事長 渡部 義弥（大阪市立科学館、2026年7月から2028年6月まで）
所在地		〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄二丁目17-1 名古屋市科学館内
電話番号		052-201-4486
ホームページアドレス		https://planetarium.jp
連絡窓口	氏名	原 秀夫
	役職名	総務担当理事
	電話番号	028-659-5555（栃木県子ども総合科学館）
	E-mail	general01@planetarium.jp
○団体概要 日本プラネタリウム協議会は「会員の交流と連携のもとに、プラネタリウムの進歩発展を図り、豊かな文化の創造、科学教育及び天文普及に寄与すること」を目的として、2006年6月1日に発足しました。プラネタリウム施設・団体、およびそれに関わる個人等が参加する「日本を代表するプラネタリウムの会」です。会員数は、およそ300団体・個人です。 様々な研究会・研修会や交流を通し、それぞれの施設や職員の資質の向上、プラネタリウム界のさらなる発展を目指しています。		
○令和8年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ・全国大会 2026年6月24日（水）～25日（木） 福岡市科学館・福岡国際会議場（福岡県福岡市） IPS（国際プラネタリウム協会）2026福岡大会との同時開催 ・全国研修会 2027年2月1日（月）～3日（水） 姫路科学館（兵庫県姫路市） ・地域や目的別のワーキンググループが国内各地で研修会・研究会等を開催 ・会誌の発行（1回） ・全国のプラネタリウム施設について、基礎データの収集と処理を行い、結果を公表する。 ・日本を代表するプラネタリウム組織として、文化庁、博物館団体、研究機関等との連携を進める。 ・IPS（国際プラネタリウム協会）の友好団体として、国際的な連携活動を行う。 ・日本のプラネタリウム業界を代表して広報広聴、情報提供を行う。		

団体名		全国文学館協議会
代表者職名・氏名		会長 中島国彦
所在地		〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-3-55 日本近代文学館内
電話番号		03-3468-4181
ホームページアドレス		https://zenbunkyo.com/
連絡窓口	氏名	信國奈津子
	役職名	日本近代文学館事務局
	電話番号	03-3468-4181
	E-mail	zenbunkyo@bungakukan.or.jp

○団体概要

文学館はわが国の文学に関する文献・資料の収集・保管、閲覧、展示などの事業を行っている、またはこうした事業を行おうとしている施設または組織であるが、その間において相互に情報の交流をはかり、共通の問題について検討・協議し、協力して文学館活動振興を推し進めることを目的として設立された。

○令和8年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等）

行事

全国文学館協議会総会 6月17日 於 日本近代文学館
 資料情報部会 11月13日(予定) 於 徳島県立文学書道館
 資料に関する共同討議 2027年3月(予定) 於 日本近代文学館

刊行物

「全国文学館協議会 会報」第93号 文学館の展示に関する共同討議(第10回)記録
 第94号 (予定)資料情報部会(第10回)の開催に寄せて
 第95号 (予定)資料情報部会(第10回)事例報告
 「全国文学館協議会 紀要」第20号

団体名		全国大学博物館学講座協議会
代表者職名・氏名		委員長大学代表 森田喜久男
所在地		〒174-0063 東京都板橋区前野町 5-5-3 淑徳大学人文学部森田喜久男研究室内
電話番号		03-3966-7631(代表)
ホームページアドレス		https://zenhakukyo.org/index.html
連絡窓口	氏名	森田喜久男
	役職名	全国大学博物館学講座協議会委員長大学代表兼事務局担当
	電話番号	03-3966-7631(代表)
	E-mail	zenpakukyo@gmail.com
○団体概要 昭和 32(1957)年設立、博物館学講座(学芸員養成課程)を開設する大学で構成 加盟大学 175 大学 委員長大学 淑徳大学 副委員長大学 明治大学・桜美林大学 東日本部会長大学 東京女子大学、西日本部会長大学 関西大学		
○令和 8 年度事業について（研修，調査研究，行事，普及啓発等） ・研修及び大会 令和 8 年 5 月 9・10 日 全国委員会(於、淑徳大学:ハイブリット開催) 令和 8 年 6 月 27・28 日 総会・全国大会(於、静岡文化芸術大学) 令和 8 年 9 月 26・27 日 西日本部会大会(於、京都外国語大学) 令和 8 年 11 月 7 日・8 日 東日本部会大会(於、東京農業大学網走キャンパス) ・刊行物 『全博協 研究紀要』第 29 号 刊行予定(令和 9 年 3 月) 『全博協会報』64 号 刊行予定(令和 9 年 3 月) 『全国大学博物館学講座開講実態調査報告』第 14 回 刊行予定(令和 9 年 3 月) ・事業 学芸員養成課程・養成教育のあり方の検討 非正規等学芸員待遇問題対策プロジェクト 学芸員養成科目再検討プロジェクト 博物館学文献目録作成に向けての文献渉猟 加盟大学間の情報交換		

団体名		大学博物館等協議会
代表者職名・氏名		会長・山内 太郎(やまうち たろう)
所在地		〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目
電話番号		011-706-2658 北海道大学総合博物館
ホームページアドレス		https://www.museum.hokudai.ac.jp/
連絡窓口	氏名	
	役職名	北海道大学 理学・生命科学事務部事務課 博物館担当
	電話番号	011-706-3607
	E-mail	museum@jimuhokudai.ac.jp
○団体概要 大学付置の博物館、美術館、資料館、史料館等およびその他の博物館等で組織され、1998年発足。毎年総会を開催し、館長会議・実務担当者会議等を含め、全国の大学博物館等の活動に関する意見交換・交流を行い、当面する問題についての情報の共有を図っている。2025年現在、加盟組織は44団体。2006年度からは総会時に博物科学会を開催し、博物学・博物館学に関連する研究発表等を行っている。		
○令和8年度事業について（研修、調査研究、行事、普及啓発等） 行事：2026度(第29回)大学博物館等協議会総会・第21回博物科学会は、6月25日(木)～6月26日(金)、慶應義塾大学で開催される。 調査研究：年1回開催される大学博物館等協議会および日本博物科学会において、加盟館の活動報告や直面している具体的な課題などを協議し、情報共有のみならず相互協力による改善に向けた取り組みの実施を目指す。 普及啓発：大学博物館等協議会ニューズレター(MUSEO ACADEMIAE)第28号の発行。		

団体名		全国歴史民俗系博物館協議会(歴民協)
代表者職名・氏名		代表幹事館代行(国立歴史民俗博物館) 館長・西谷 大
所在地		〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117 番地 国立歴史民俗博物館 博物館事業課内
電話番号		043-486-4303
ホームページアドレス		https://www.rekimin.com/
連絡窓口	氏名	大木 淳一
	役職名	事務局員 (国立歴史民俗博物館 博物館事業課長)
	電話番号	043-486-4303
	E-mail	rekimin@rekihaku.ac.jp
○団体概要 設立年月日：平成 24 年 6 月 14 日 目 的：有形無形の文化資源の保存と活用に努める全国の歴史民俗系博物館の交流と連携により、歴史と文化が地域社会の基盤として不可欠であるという理念に基づいて、社会に貢献することを目的とする。 会 員 数：822 館（令和 8 年 3 月 31 日現在）		
○令和 8 年度事業について ・ 令和 8 年度年次集会の開催 ・ 能登半島地震被災文化財等救援事業への参加 ・ 歴史民俗系博物館のネットワークの充実と整備 ・ 関係団体等の会議への参加		

団体名		日本公開天文台協会 (Japan Public Observatory Society (JAPOS))
代表者職名・氏名		会長 竹内 幹蔵 (島根県立三瓶自然館学芸課天文事業室室長)
所在地		〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8「島根県立三瓶自然館」
電話		0854-86-0500(代)
ホームページアドレス		https://www.koukaitenmondai.jp/
連絡窓口	氏名	安田岳志
	役職名	事務局長 (姫路科学館 (学芸・普及担当))
	電話番号	079-267-3001(代)
	E-mail	staff@koukaitenmondai.jp

○団体概要

本物の天体を通して自然観を養い、心豊かな人格形成に資するための生涯学習支援に取り組む公開天文台の発展を目的として、2005年(平成17年)に設立されました(前身の「全国の天体観測施設の会」は1992年(平成4年)発足)。この目的を達成するために、公開天文台間の情報交換および相互支援を行い、諸活動の充実と職員の資質の向上、ならびに職員と公開天文台の一層の社会的地位の向上を目指して様々な事業を実施しています。

日本の公開天文台は、2026年に100周年を迎えます。岡山県の倉敷天文台に始まる発展の歴史を振り返りつつ、新たな100年への出発点となる節目あたり、記念事業の準備が進められています。

会員数は個人会員117、施設会員136、準会員52、賛助会員13、計318(令和8年3月31日現在)。

○令和8年度事業について(研修、調査研究、行事、普及啓発等)

(研修・行事など)

- ・全国大会(研究大会、総会)6月29日～7月1日(倉敷科学センター)
- ・公開天文台台長会議(未定)
- ・全国研修会、地区研修会、オンライン研修会など(2027年の天文現象ほか)(未定)

(調査研究など)

- ・調査研究委員会、博物館としての公開天文台委員会、次世代型公開天文台WG、公開天文台100年記念事業調査・編纂WG、天文体験プログラム研究委員会WG(予定)などの活動
- ・回報の発行

(普及啓発など)

- ・公開天文台100周年記念事業
- ・キャンペーン事業(スター・ウィークキャンペーン協力(8月)など)
- ・ホームページやメーリングリストの運用
- ・海外の天文施設や団体との交流推進

(刊行物)

- ・全国大会集録 12月刊行予定
- ・公開天文台100年史 12月刊行予定
- ・公開天文台白書2025 12月刊行予定